平成２３年度

教育委員会点検・評価報告書

平成２４年１１月

登別市教育委員会

目　　次

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ 評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

１ 点検・評価の対象
２ 実施の流れ

Ⅲ 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
１ 教育委員会の活動状況の概要報告
２ 重点施策の評価
３ 重点施策の評定結果

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等・・・・・・・・・３２

Ⅴ 評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

Ⅵ 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
１　平成２３年度教育行政執行方針
２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ
３　平成２３年度　各種基本計画の進捗状況
・ 学校教育基本計画
・ 第４次社会教育中期計画
・ 文化振興基本計画
・ スポーツ振興基本計画

Ⅰ 教育委員会の点検･評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）が改正され（平成２０年４月１日施行)、教育委員会では、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされました。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、平成２３年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（２２項目）について点検評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「登別市教育委員会点検・評価報告書」としてまとめました。

本報告書を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいります。

Ⅱ 評価の手法

１ 点検･評価の対象

登別市教育委員会点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、平成２３年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施しました。

２ 実施の流れ

⑴教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の１年間の様々な活動について

⑵平成２３年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価しました。

点 検 内 容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取 組 状 況	当該年度内に実施した取組の概要
評　　価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

⑶教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・４段階（Ａ～Ｄ）で、評価を実施しました。

Ａ：達成しているもの

Ｂ：おおむね達成しているもの

Ｃ：達成見込みであるが一部課題があるもの

Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの

(4) 点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方からの意見、助言をいただきました。

学識経験者

氏　　名	所　　属　　等
石 井　憲 一	元日本工学院北海道専門学校　参与
浅 野　　清	登別市退職校長会　会長

Ⅲ 評価結果

1 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会については、毎月１回下旬に定例会議を開催しました。

必要に応じて開催する臨時会議は、開催されませんでした。

会議においては、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則に従って、教育長委任事務以外の事務における議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承されました。

また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、委員と事務局との間で意見交換を行いました。

(2) 平成２３年度　登別市教育委員会「定例会議」の概要

第１回	4/21	議案第１号 ・登別市体育指導員の委嘱について
会議	16:30	情報提供　1,平成23年度登別市組織機構図(教育委員会)
		2,平成23年度教育委員会事務局職員名簿
		3,平成23年度児童数・学級数調書(小学校)
		4,平成23年度生徒数・学級数調書(中学校)
		5,平成23年度登別市小中学校行事予定一覧
		6,平成23年度登別市の学校教育の構造図
		7,平成23年度登別市小中学校校長会・教頭会三役
		8,年度別不登校児童生徒出現の状況
		9,不登校「きっかけ・継続の理由」分布
		10,年度別いじめ認知件数推移の状況
		11,平成22年度におけるいじめの状況等
		12,平成23年度登別市学校支援地域本部事業の取組
		13,のぼりべつ通学合宿事業の概要について
		14,放課後子ども教室推進事業について

		15,平成23年度第53回北海道体育指導委員研究協議会について 16,登別市の授業改善実践事例集
第２回 会議	5/24 16:30	報告第1号　市議会臨時会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 議案第２号 登別市立図書館協議会委員の任命について 第３号 平成22年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について 情報提供　1,東北太平洋沖地震にかかわる支援対策会議 〇白石市への義援金取りまとめについて 〇職員派遣一覧について 〇支援物資受付について 〇登別市内中学校修学旅行対策について 2,学校における防災計画について 〇大津波警報発表されたときの対応について 〇津波避難訓練の実施について
第３回 会議	6/23 16:30	情報提供　1,平成23年第2回登別市議会定例会の提出議案について 2,市内小中学校における津波災害対策について 3,平成23年度教育課程編成状況について 4,教科書展について 5,通学合宿について
第４回 会議	7/26 16:30	報告第2号 平成23年第2回登別市議会定例会一般質問について・ 情報提供　鷲別地区小中学校耐震化地域懇談会について
第５回 会議	8/29 16:30	報告第3号　平成23年度教科用図書第10採択地区教育委員会協議採択結果について 報告第4号　公有財産の所属替えについて 情報提供　1,平成23年度一般会計補正予算(第4号)要求概要 2,平成23年度学校給食事業特別会計補正予算(第1号)要求概要 3,登別市体育指導委員会設置条例の一部改正について 4,公立中学校の耐震化の推進状況について 5,「宮武祥子後援会」について 6,図書館及び配本所への「からくり時計」寄贈について
第６回 会議	9/29 16:00	議事日程1　登別市教育委員会委員長の選挙について 議事日程2　登別市教育委員会委員長職務代理者の設定について 議案第4号　登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則及び登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 議案第5号　平成22年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価報告について 報告第5号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 報告第6号　平成23年度第3回登別市議会定例会一般質問について

第７回 会議	10/31 16:30	報告第7号 平成23年度登別市功労者表彰及び登別市表彰受賞者について 議案第6号 登別市立学校の事務主幹命課に関する学校管理規則の一部改正について 議案第7号 小学校及び中学校における事務主幹の命課基準の改正について 議案第8号 登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 情報提供 鷲別地区学校耐震化改築検討委員会だよりについて 青葉小学校灯油漏れ事故について 郷土資料館開館30周年記念特別展について 平成23年第2回市議会決算審査特別委員会への質問事項について 教育ふれあいウィークについて
第８回 会議 移動教育委員会 青葉小学校	11/29 15:30	報告第８号 市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 青葉小学校屋内運動場耐震改修工事視察 校長との懇談会 ～テーマ：青葉小学校の研究について～ 情報提供 鷲別小学校中学校耐震化等にかかる改築検討委員会の取組状況について
第９回 会議	12/19 16:30	報告第９号 平成23年第4回登別市議会定例会一般質問等について 議案第９号 登別市立学校学校医等表彰について 議案第10号 登別市立図書館条例施行規則の全部改正について 情報提供 平成24年登別市成人祭について 第2回「のぼりべつし学校給食展」について マイコプラズマ肺炎及びインフルエンザについて 学力向上対策について
第10回 会議	1/25 16:30	報告第10号 平成23年度登別市小中学校等耐震診断結果（幌別小学校体育館、鷲別中学校校舎、西陵中学校体育館、総合体育館）について 協議第１号 登別市立図書館条例の一部改正について 情報提供 平成２４年度登別市教育行政執行方針の概要について 登別明日中等教育学校の市内小学校からの受検状況について 平成２３年全国学力学習状況調査の登別市の状況について
第11回 会議	2/20 16:30	議案第11号 平成24年度学校給食費の額について 第12号 平成24年度登別市教育行政執行方針について 報告第11号 市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 情報提供 集団風邪インフルエンザ等による措置状況について

第 12 回	3/26	報告第12号　平成24年第1回登別市議会定例会一般質問等について
会議		第13号　教職員人事内申に係る臨時代理の報告について
	16:00	第14号　登別市立鷲別小学校改築基本構想について
		第15号　人事異動発令に係る臨時代理の報告について
		議案第13号　登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
		情報提供　小学校スキー体験学習の成果と課題について
		市内中学校平成24年度公立高校入試合格状況について

(3) 調査活動の実施状況

教育委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①公開研究会等の視察

11/10　幌別東小学校：武田教育長出席

11/11　鷲別小学校：垣内委員（他１名）出席

11/18　幌別西小学校：垣内委員（他１名）出席

11/22　若草小学校：武田教育長出席

②実践研究発表会(胆振道徳教育推進教師研究会)

10/7　青葉小学校：垣内委員（他１名）出席

③教育ふれあいウィーク視察

・市内一斉公開日「ふれあいＤＡＹ」の視察 10/31･11/1

松村委員長(鷲中･鷲小･幌中)　垣内委員(富小･鷲小･鷲中･青小･西小･幌小)

森口委員(鷲中) 武田教育長(富小･東小・若小･青小･西小･緑中)

・11/5　土曜寺子屋視察　垣内委員

・11/4　市教研講演会　垣内委員(他１名)出席

④登別市教育研究会研究大会の視察　武田教育長出席

・11/8　視察校

登別小学校(社会科部会)　幌別中学校(音楽・コンピュータ部会)

幌別小学校(特別支援部会)　西陵中学校(進路指導・事務部会)

青葉小学校(道徳部会)

⑤ 8/24･8/25　北海道都市教育委員会連絡協議会　定期総会

函館市　森口委員（他３名）出席

⑥胆振管内教育委員会委員研修会　洞爺湖万世閣　2/6･2/7　千葉委員(他４名)出席

第一分科会(教育行政部会)学力向上について(教育委員会が担うもの)

第二分科会(学校教育部会)学力向上について(学校における具体的な取組)

第三分科会(社会教育部会)学力向上について(家庭や地域が担うもの)

⑦卒業証書授与式出席

幌別小学校(3/16)・幌別中学校(3/11)・・・・・・・・・・・・松村委員長

幌別東小学校(3/19)・西陵中学校(3/13)・・・・・・・・・・垣内委員

鷲別小学校(3/19)・若草小学校(3/16)・鷲別中学校(3/14)・・ 森口委員

登別中学校(3/15)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 千葉委員

登別大谷高等学校(3/4)・青嶺高等学校(3/1)・・・・・・・・武田教育長

２ 重点施策の評価

項　　目	１　信頼される学校づくり
点検内容	「学校教育基本計画」に基づき、学校、家庭、地域の連携のもと、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。
取組状況 評　　価	登別市教育ふれあいウィークの実施　10/31(月)～11月5日(土) これまで、ふれあいＤＡＹとして市内小中学校の一斉公開に取り組んできたが、平成23年度は、北海道教育の日と連動させ学校や地域で行われている教育の課題に対応した各種事業を「教育ふれあいウィーク」として実施した。登別市の「今」と「これから」を共に考えるきっかけとなるよう各種教育関連団体と協働し、多彩なプログラムを用意しどのプログラムも市民の参観を呼びかけた。 **一斉学校公開日・・・・・・・・・・10月31日(月) 11月 1日(火)** 会　場：(10/31)：富小・鷲小・東小・幌中・緑中・鷲中 (11/ 1)：東小・登小・西小・青小・若小・幌小・登中・緑中・西陵中 内　容：市内全小中学校の一日の様子(授業・休憩時間・給食など) を公開 参観者：保護者＝914名(昨年781名)　地域等＝137名(78名)　合計1051名(859名) 評　価：地域等の参観者が増加し一斉公開日とその意義が浸透してきている。 授業等のプログラム、学校紹介リーフレット等の準備、ＴＴの授業、英語活動の様子など特色ある教育活動を公開している学校が増えてきた。 **特別支援教育懇談会・・・・・・11月 2日(水)** 内　容：特別支援教育のしくみやあり方について意見交換 参　加：市内障がい者福祉関係団体：肢体不自由児・者父母の会・身体障害者福祉協会・手をつなぐ育成会・障がい児親子の会ぽぽくらぶ　合計１６名 評　価：市教委の取組、障団連の取組の現状を交流することができた。 **小学生イングリッシュ広場・・・11月 3日(木)** 内　容：登別市内に派遣されているＡＬＴと英語支援員が英語の魅力を伝える 参　加：幌西小・幌別小・青葉小・若草小児童　　合計１０名 指　導：英語補助員＝長谷部・鴇　　ＡＬＴ＝キアン・チャールズ　合計４名 評　価：参加(定員２０名に１０名)するには近隣校以外は保護者の送迎が必要となり参加者が定員に満たなかった。 参加者の感想は、「楽しかった(100%)」「また参加したい(80%)」で他校児童との交流が好評でコミュニケーションを高める活動となった。 **教育講演会・・・・・・・・・・・・・11月 4日(金)** 内　容：市教研教育講演会 講　師：NPO法人ｴｸｽﾌﾟﾛｰﾗｰ北海道 佐藤一美 氏(元拓勇小PTA副会長) 参　加：市内学校職員、一般市民　１５０名 評　価：講演内容が、子どもの見守り活動から地域との絆を深める取組についてであり、学校、地域、家庭の連携を考えることができた。 **公開土曜寺子屋・・・・・・・・・・11月5日(土)** 内　容：土曜寺子屋の活動の様子を公開 指導者：教員ＯＢ（算数・登別の歴史）　２コマ（４５分×２）

	参　加：幌別西小学校５・６年登録児童１０名 評　価：登録している児童全員が参加し、楽しく学習活動が展開され他地区のコーディネーターに寺子屋の取組を知ってもらう機会となった。
今後の方向性	教育行政執行方針の重点項目と学校教育基本計画との関連、進捗状況を明らかにしながら特色ある教育を推進していく。

項　　目	2　新学習指導要領への対応
点検内容	移行期間の取り組み状況を踏まえ、指導内容の変更や授業時数の増加などの改訂事項が的確に実行されるよう各学校の取り組みを支援する。
取組状況	小学校は、学習指導要領が平成 23 年度より全面実施され 5 月の「教育課程編成に係るヒアリング」において、編成上の課題や実施方法について協議した。外国語活動が５，６年生で本格実施されたことから、ＡＬＴを週１回以上派遣できるようにするとともに、担任とＡＬＴをつなぐために英語支援補助員を配置する。 中学校は、平成24年度必修化される授業に伴う教材用具の準備を行う。 ソフトボール用具:安全バット:6本　ボール:20球　グラブ:42個　ベース:1セット 柔道用具:上着:40枚　安全マット:60枚(1m×1m) 英語:デジタルカード 1セット
評　　価	新学習指導要領の重点内容、指導時間数、新たに取り入れられた指導内容などをヒアリング等で協議し、確実に実施することができた。外国語活動は、移行期間より準備を進めていたためスムーズに実施することができた。
今後の方向性	知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した授業の展開と、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体の育成をめざした取組を推進する。

項　　目	3　学力向上対策
点検内容	「登別市学力向上プラン」に基づき、各学校が進める指導方法の工夫・改善の取り組みを支援するとともに、学校と家庭の連携による学習習慣や生活習慣の確立を図り、基礎・基本の着実な定着を図る。

第１回　登別市教育課程課題検討委員会　　平成２３年７月２１日（木）

市内小・中学校担当（教頭・教務主任又は研修部長）登別市校長会研究部

目　的　　本年度の学力向上の計画について各校の状況を交流する。

内　容　　○これまでの学力向上対策について（現状と課題）

○平成２３年度登別市学力向上プランについて

○本年度の目標について(学ぶ意欲をはぐくむ・活用する力を高める・学習習慣を身に付ける)

第２回登別市教育課程課題検討委員会　　平成２４年２月２９日（水）

目　的　　本年度の学力向上対策の結果と課題について各校の状況を交流する。

内　容　○平成２３年度の学力調査の結果・分析について

○本年度の学力向上対策のまとめ・成果と課題について

チャレンジテスト(道教委の作成する練習問題）の参加状況

「春のトライやるウィーク」　5/16 ～ 6/17 に実施　小・中１３校が参加

「秋のトライやるウィーク」　11/1 ～ 11/30 に実施　小・中１３校が参加

活用状況　　小6・中3における主な活用状況（複数回答可）

	①授業	②朝自習	③放課後学習サポート	④長期休業学習サポート	⑤日常の宿題	⑥長期休業中の宿題	⑦家庭学習
小学校	5	5	2	4	5	2	4
中学校	1	0	2	1	3	0	0

平成２３年度長期休業中（夏休み）の学習サポート

学校名	名　称	期　日	対　象	教　科	のべ数	内　容
鷲別小	ひなわしチャレンジ講座	7/25～26	4･5･6年希望者	国語･算数	73名	チャレンジテスト･教科書練習問題･漢字検定･学テ過去問･プリント等
登別小	サマースクール	7/26～28	5･6年希望者	国語･算数	105名	全国学力調査過去問題、基本･活用問題
若草小	若草学びタイム	7/25,26,27	3年以上希望者	国語･算数	160名	チャレンジテスト、放課後学習プリント、全国学力調査過去問題
幌西小	夏休み学習サポート	7/25～26	4･5･6年希望者	算数	52名	学力調査過去問題･チャレンジテスト･学習プリント･その他自作問題
富岸小	学習サポート日	7/25～26	5､6年生希望者	算数	108名	チャレンジテスト･過去問題･市販ドリル
幌別東	チャレンジスクール	7/25～26	2年以上希望者	国･算	68名	チャレンジテストの問題、プリント等
登別中	夏季講習	7/26,27,8/2～5,8,9,16	3年	数･社	20名	補充学習、問題集
緑陽中	夏休み学習会	7/25～29	3年希望者	国数社理英	50名	問題集、プリント、入試問題など
鷲別中	夏期講習	7/25～29	3年希望者	国数社理英	40名	教科担任作成プリント
		7/25～27	1年希望者	数･英	103名	教科担任作成プリント
幌別中	夏休み学習会	3～7日間	全学年希望者	国数社理英	105名	夏休み課題プリント　3年は学習会用に作成したプリント
西陵中	補習･教育相談	8/9,10,12,16	部活動生徒	社･理	35名	問題集、プリント等
幌別小	夏休みは個人面談実施(10日間)のため、学習サポートは冬休みに実施					

平成２３年度の全国学力学習状況調査の全体的な考察

今年度は、東日本大震災の影響で全国調査は中止となったが、北海度における全国学力･学習状況調査問題を活用した学力等調査として小中学校13校全校が参加し9月27日（１校：9/29)に実施した。そのため、平均正答率など、全国の傾向と比較し検証することはできない。 11月に国語・算数Ａ問題の速報データの公表を受け、市内の状況について情報提供した。また、12月に全調査の結果公表を受け、市内の状況について情報提供した。学力調査結果は、全道の状況と比較するとともに、過去５年間の傾向についても分析する。

児童生徒の学習の状況を調べる質問紙調査については、平成22年度調査における全国の傾向及び今年度の全道の状況と比較し考察した。小学校においては、国語・算数Ａ・Ｂのすべてにおいて、全道の平均正答率を超え、これまでの当市での取り組みが成果となって表れてきている。中学校においは、ここ数年厳しい状況が続いていたが、平成23年度調査では、全道平均に近づきつつある。学力向上の取組により、大きく平均点が上昇した学校がある。また、教科や問題種によっては、下位層や中下位層がやや厚い状況も見られ、原因の分析と改善の取り組みが必要である。

国語、算数･数学のＡ問題は、小・中学校ともに、多くの設問で正答率が高く、基礎学力の向上や定着がうかがわれる。しかし、Ｂ問題は依然として正答率の低い傾向が見られるとともに、記述式問題では無回答率が高いなど、活用する力が不十分であると考えられる。

家庭学習時間など、学習習慣にかかわる状況の改善が見られるとともに、学校における長期休業中の

補充的な学習サポートや授業の工夫改善も推進されており、学力向上に向けた取組の強化がうかがわれる。生活面では、インターネットの利用時間や携帯電話所持率の増加など、新たな課題も見られる。今後も、学習と生活の両面において、学校と家庭の連携した取り組みが大切である。

教科に関する調査結果

1　小学校の教科に関する調査の結果分析

○国語Ａについては、話すこと・聞くことに課題が見られる。

○国語Ｂについては、どの領域においても一定以上の水準に達してる。

○算数Ａについては、数量や図形についての表現や処理に課題が見られる。

○算数Ｂについては、数と計算の領域に課題が見られる。

2　中学校の教科に関する調査の結果分析

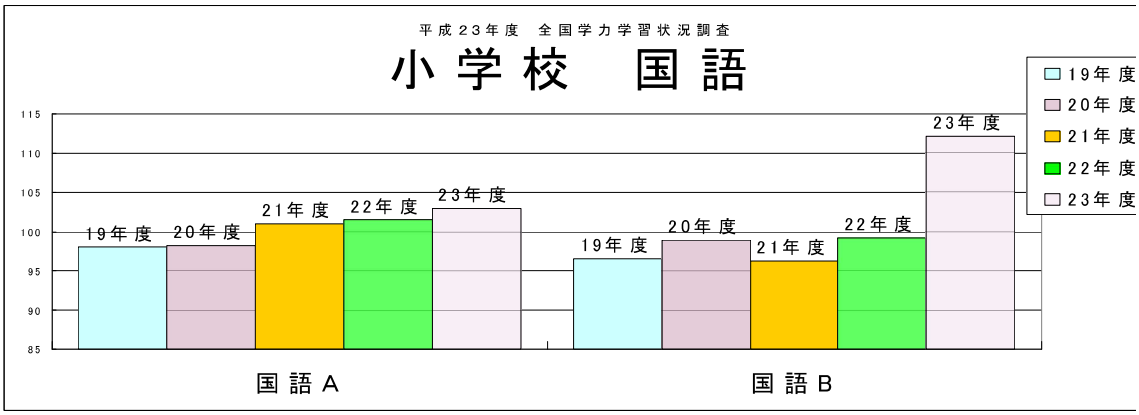
○国語Ａについては、記述式問題の正答率が低く、課題が見られる。

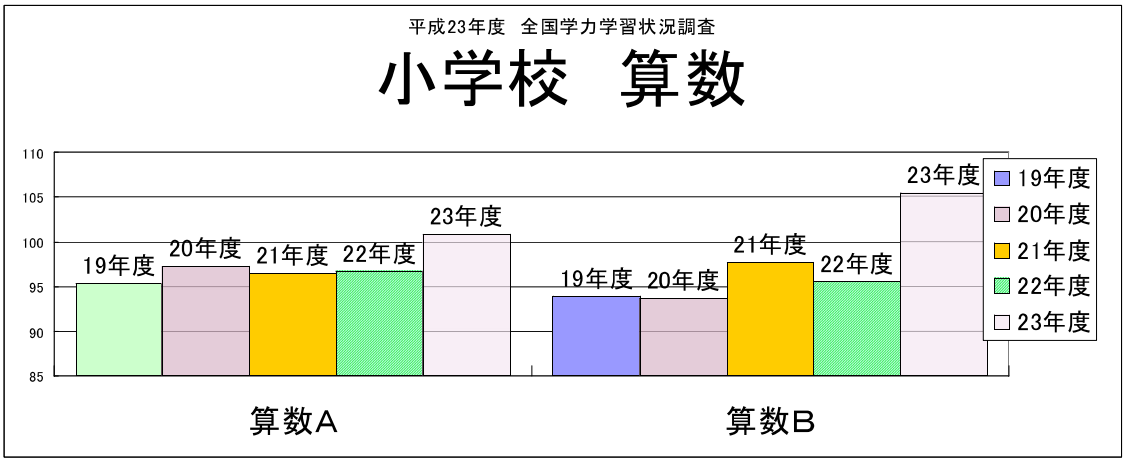
○国語Ｂについては、言語事項は正答率が高くに改善が見られるが、記述式問題は正答率が低く課題が見られる。

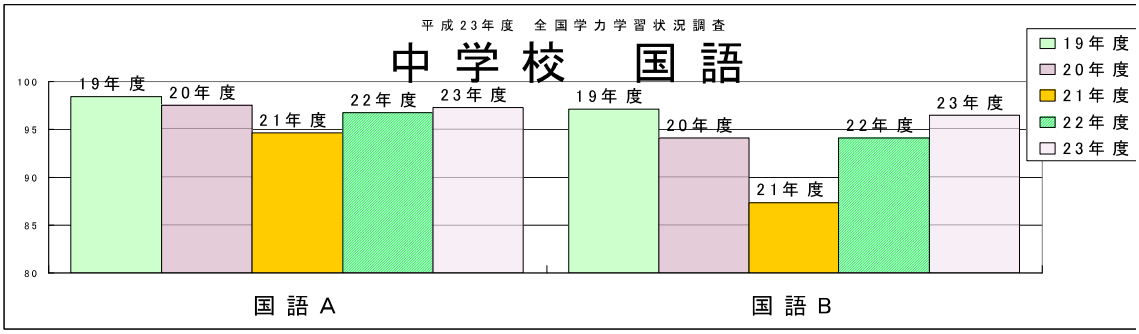
○数学Ａについては、数量関係の理解に課題が見られる。

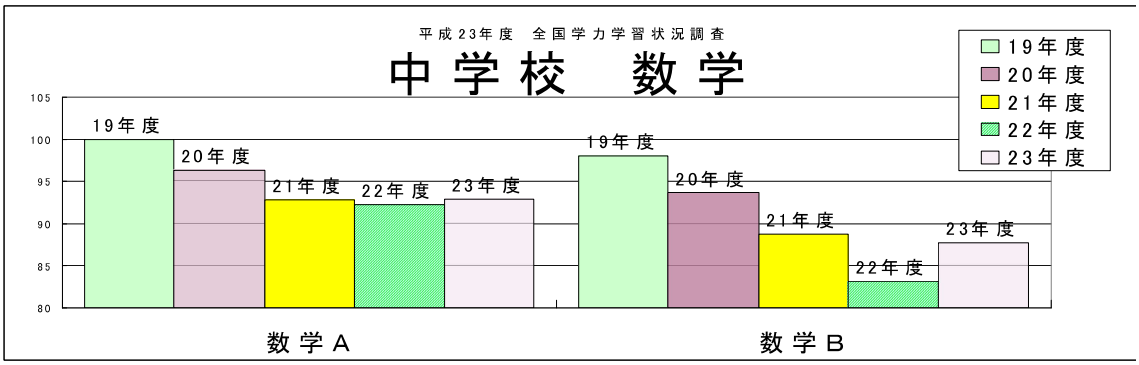
○数学Ｂについては、全般的に正答率が低い状態ではあるが、22年度と比べて改善が見られる。

過去５年間の調査結果の教科別推移





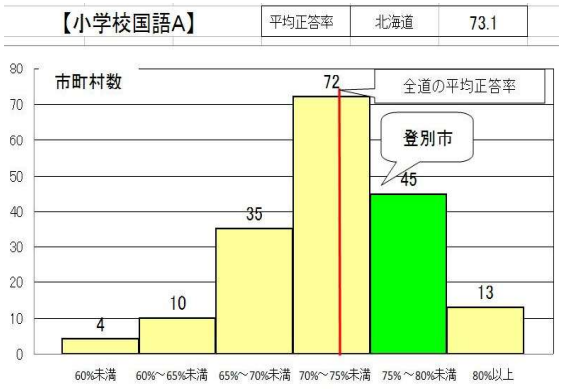


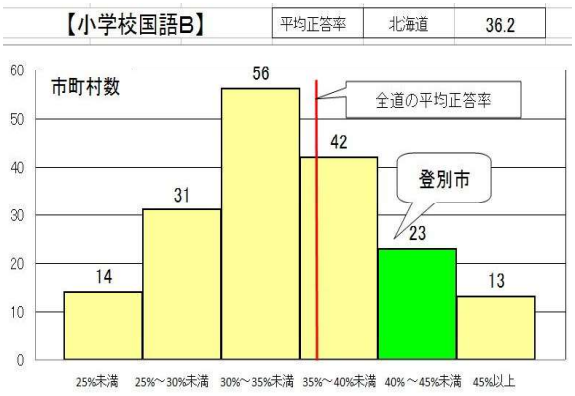


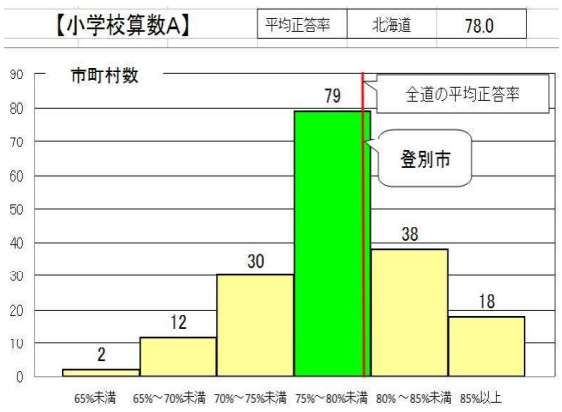
全道177市町村ごとの正答率と登別市の状況

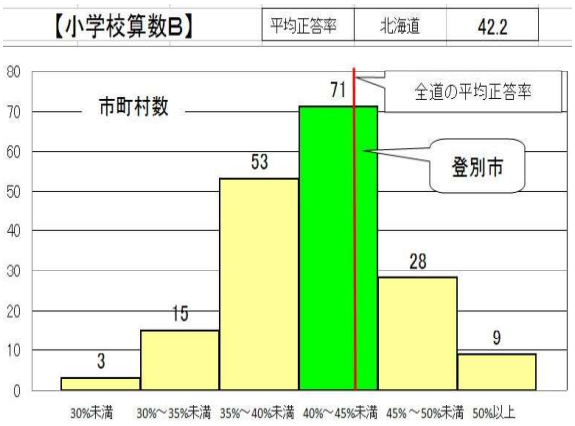
※棒グラフの数値は該当の市町村数を表す。また、全道の平均正答率の位置を大まかに表す。

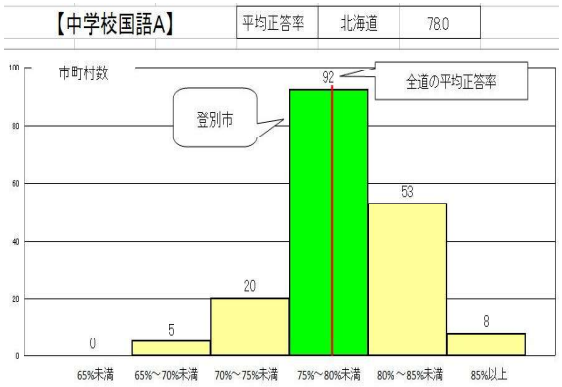
例えば、小学校国語Aは、正答率が75%～80%未満の範囲に属し、全道45市町村が同じとなる。

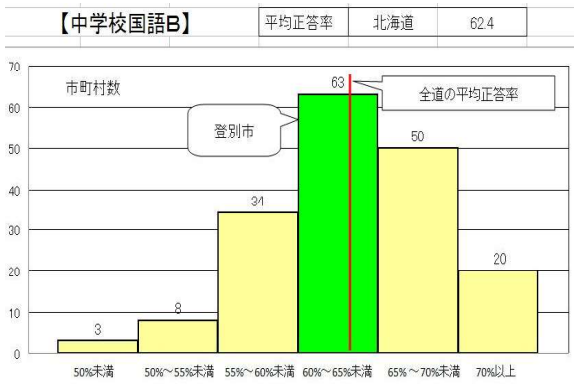


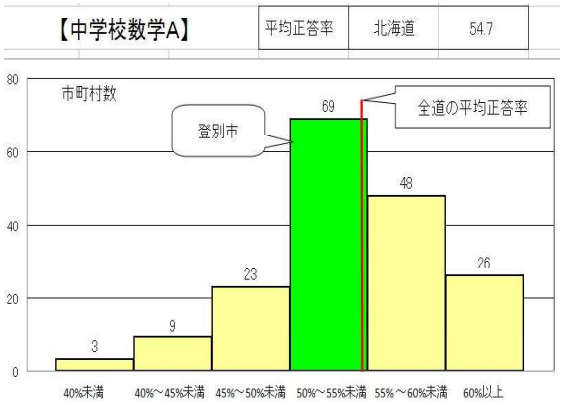


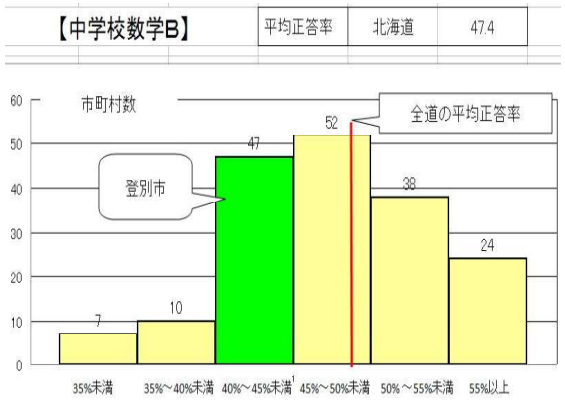












児童生徒質問紙調査の結果（学習にかかわる状況の調査）

○小学校では、国語よりも算数の好きな児童が多いが、中学校になると逆の傾向になる。また、国語が好きと答えた割合は、小中学校ともに全国の平均と比べ１０ポイント以上低くなっている。数学については、中学校に進級して急速に難しくなる内容に、否定的な回答が増え苦手意識が高まっている。

○学校の授業以外に、普段（月から金）、1日あたりの学習時間が小学校で４７%、中学校で６２%と、前年と比べて大幅に増加している。各学校の宿題や家庭学習の取り組みなどが成果となって表れてきていると言える。

○宿題には、小学生よりも中学生の方が、取り組む割合が減少している。また、全国と比べて取り組む児童生徒の割合が低い傾向にある。

○読書が好きであるという割合は、小学生、中学生ともに全国平均より高くなっていて各学校での朝読書などの読書の推進が成果となって表れていると言える。

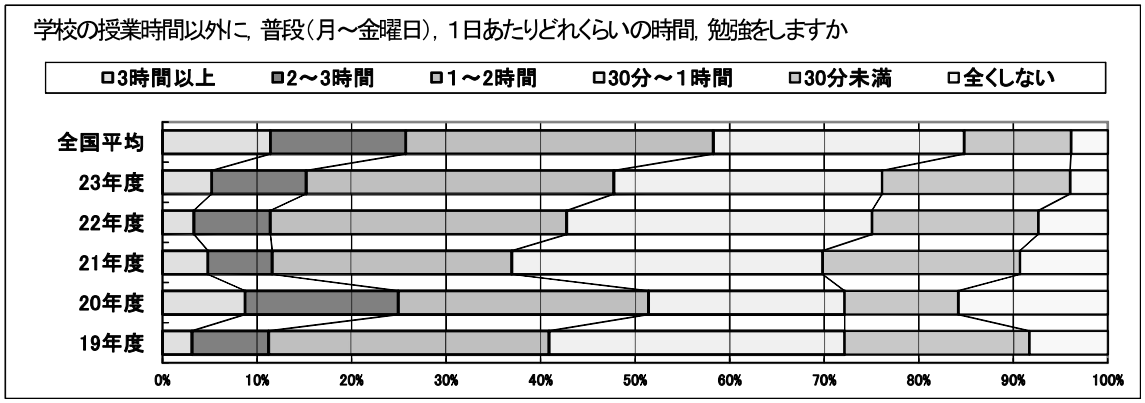
○小学校において、算数が好きと答えた割合は、過去5年間で一番高く、本年度の学力調査の結果と関連があると考えられる。しかし、中学校においては、数学が好きであるとい割合は、過去５年間で一番低く、生徒への興味、関心を高める指導が必要である。

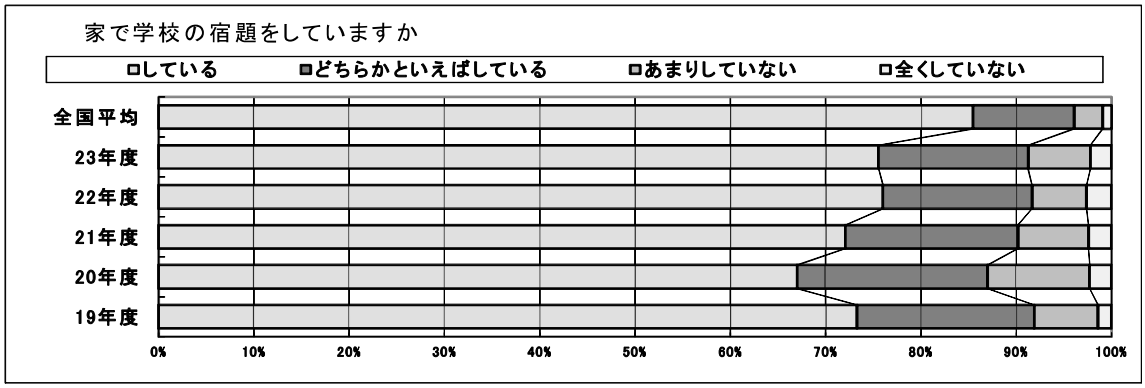
○家や図書館で、普段（月～金曜日）、１日あたりの読書時間は、小学校、中学校ともに増加傾向にあり、読書への興味の高まりが見られる。

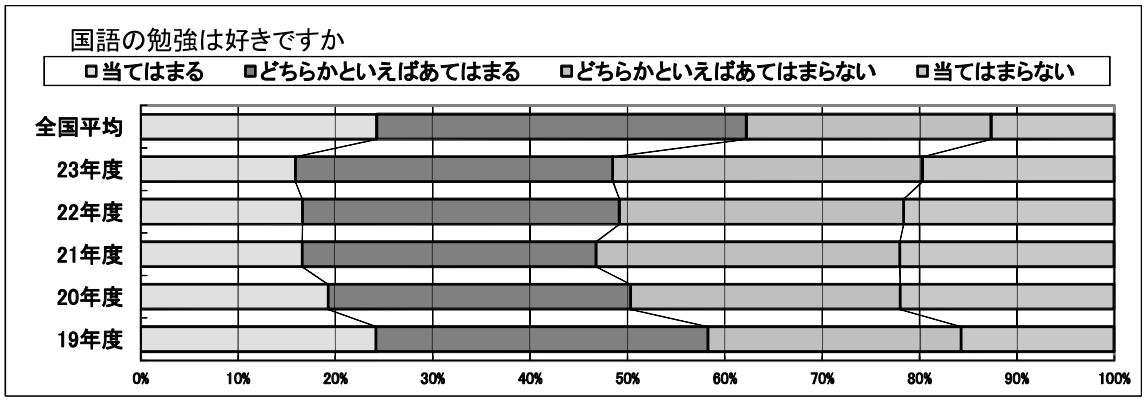
○小学校の平成20年度の児童が中学校の平成23年度の生徒と同一であり、家庭学習や宿題に取り組む時間が確実に増加していることがわかる。

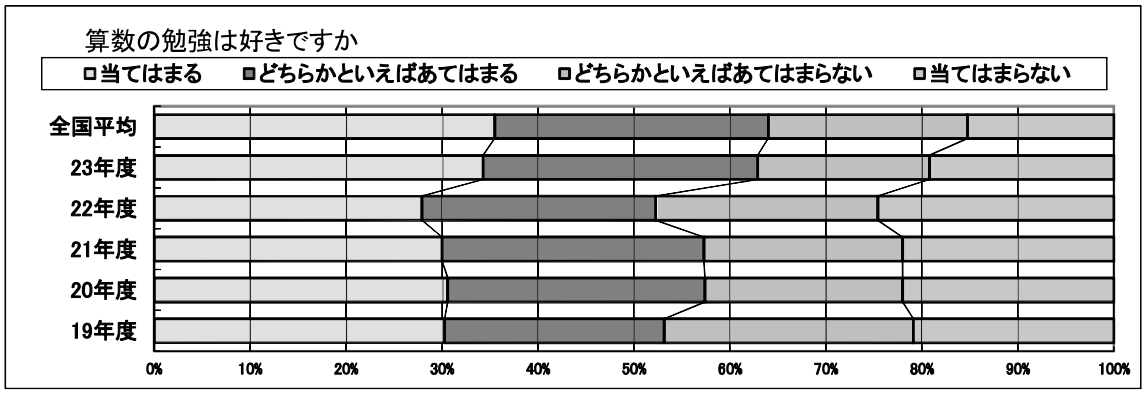
○児童生徒ともに、携帯電話の所持率が、全国・全道と比べて高い。

学習状況調査　小学校（過去5年間の状況）　全国平均は平成22年度

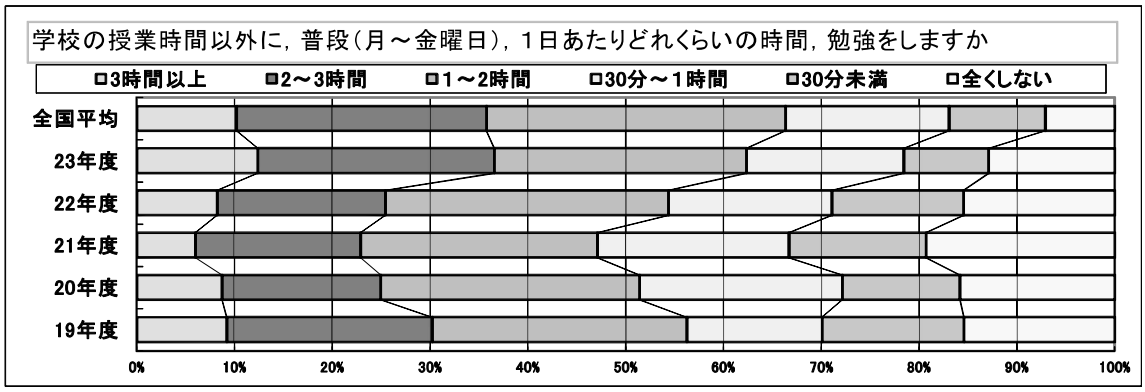


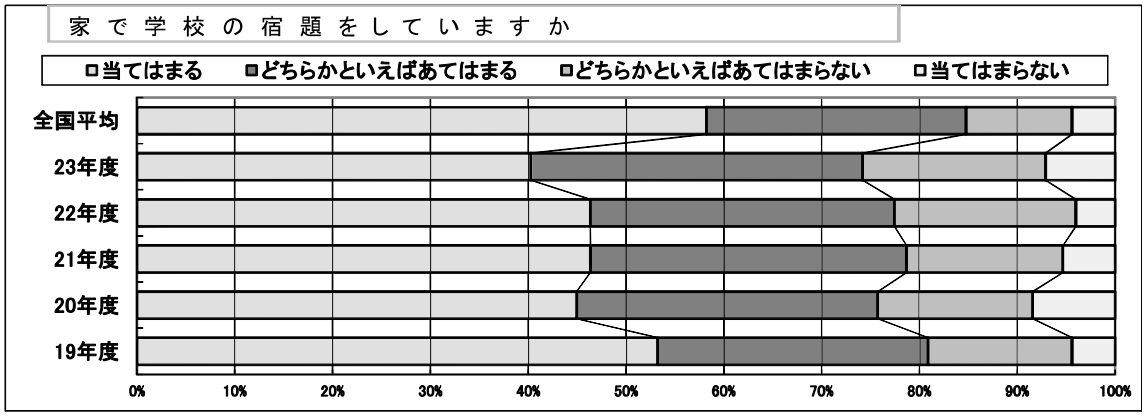


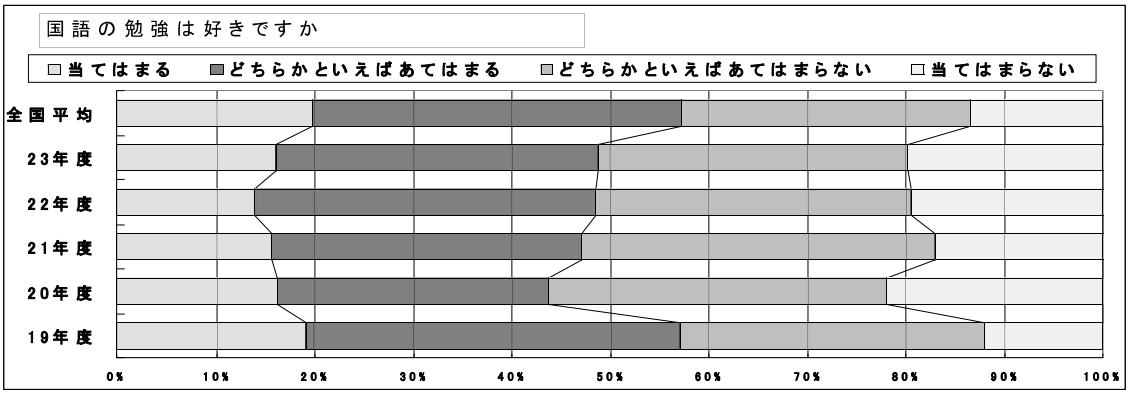


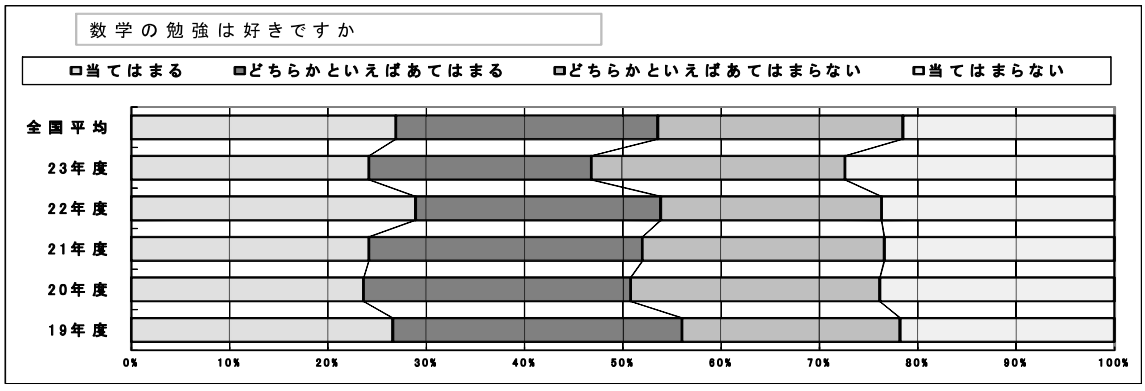


学習状況調査　中学校　　（過去5年間の状況）全国平均は平成22年度









取組状況 評　　価	胆振管内の学力向上アクションプラン推進校に１３校すべてが参加し、チャレンジテストやその問題を活用したトライやるウィークに参加したほか、長期休業中の学習サポートに取り組むことができた。また、校長会と連携した登別市教育課程課題検討委員会で、学力向上対策を推進することができた。
今後の方向性	指導力の高い教員が近隣校の若手教員を指導する巡回指導教員活用事業に新たな協力校を指定し推進する。また、家庭、地域と連携した取組を推進する。

項　　目	４　教職員の指導力向上
点検内容	教育実践奨励校を指定し、主体的な校内研究の実施を奨励するとともに、若手教員の資質向上を目指す「巡回指導教員活用事業」に取り組む。
取組状況 平成２３年度　市内公開研究会の状況	巡回指導教員活用事業は、児童生徒の学力を高めるため、教科指導において豊富な経験と高い専門性、実践的指導力を有する教員が、学力向上に積極的に取り組む近隣校を巡回し、若手教員等の指導、授業づくりにかかわる支援を行った。推進校を幌別小とし、協力校の幌東小、登別小に週１回、巡回指導教員を派遣した。

学校名	月　日	教科	研究主題	研究指定
幌別東小学校	11/10　木	算数	わかる喜びを知り、意欲的に学ぶ子どもの育成	登別市研究奨励校
鷲別小学校	11/11　金	国語	自ら学び自分の思いを豊かに表現する子どもの育成	登別市研究奨励校
登別小学校	11/11　金	算数	わかる喜びと考える楽しさを実感できる子どもの育成	登別市研究奨励校
幌別西小学校	11/18　金	国語・外国語	目的に合わせて考え・判断し・伝え合うことができる児童の育成	管内・登別市研究奨励校
若草小学校	11/22　火	国語	自ら考え、学び合う子どもの育成	管内・登別市研究奨励校

実践研究発表（授業を中心とした発表）・研究大会（管内の研究団体による発表）

青葉小学校	10/ 7(金)	道徳	実践研究発表　道徳教育推進教師研修
緑陽中学校	10/26(水)	道徳	第29回胆振国際理解教育研究大会

評　　価	巡回指導教員活用事業では、協力校の若手教員の授業に加わりアドバイスを行うなど指導力向上を図ることができた。 小学校５校で公開研究会を実施し、新学習指導要領に基づく学習の指導方法について市内各学校の教員が参加し普及を図ることができた。
今後の方向性	**次年度においても、引き続き、研究奨励校指定を奨励し、校内研修の推進と教師の指導力向上に努めていく。**

項　　目	５　開かれた学校づくり
点検内容	教育活動の状況等、学校の様々な情報の提供に努めるとともに、学校評議員や学校評価等を積極的に活用し、学校、家庭、地域が一体となった機動的な学校運営の推進を図る。
取組状況	○学校評議員５７名 保護者６名　自治会１９名　企業関係９名　社会福祉１３名　社会教育４名 学識経験者１名 その他（学校歯科医・幼稚園・障がい者施設・学校薬剤師）５名

○学校評議員の意見に対する取組状況 **【改善が図られた例】**

項　　目	学校名	評議員からの意見内容	意見を受けての改善内容
地域との連携協力に関すること	鷲別小学校	地域パトロールや市民憲章学習会など、地域の人間がかかわっている取組を積極的に活用してほしい。	防犯訓練に一緒に参加していただいた。 市民憲章学習会を高学年で実施。
教育課程・学習内容、学力向上に関すること	幌別東小学校	・学力向上は大切なことであり、児童一人一人のレベルアップをしていただきたい。 ・不登校の原因に学習でのつまずきがある。積み上げが大切である算数は大切である。 ・外国語活動の授業参観はよかった。今後は、指導助手のALTが、日本の教育の仕組みやねらい等について、熟知して指導に当っているかが課題である。ALTを活用しながら楽しい授業にしていただきたい。	・学習内容の定着を図るため、月1回程度、放課後に学び直しの時間を設定した。全校児童の6～7割が希望し、個別学習を進め、効果が表れている。 ・校内研修で算数の研究に取組、授業改善に努め、学習意欲の向上などに成果が見え始めている。 ・毎週ALTが派遣され、高学年の外国語活動の指導助手を行っている。さらに、他学年の総合的な学習の時間や音楽科の授業にも指導助手として関わり、外国語に慣れ親しむ活動を行っている。
学校に対する評価に関すること	鷲別小学校	先生方が皆一生懸命でよい。今後もそうあってほしい。	全職員に伝え，地域と共に歩む重要性を共通理解した。
学校運営方針・教育目標に関すること	幌別東小学校	・学校が毎年新しいことにチャレンジして、可もなく不可もなくではなく、動きのある学校経営をしてほしい。	・前例踏襲の学校経営ではなく、児童の実態に応じた学校の課題を示した。重点目標や具体的な方策を適切に設定した学校経営を行う。
児童生徒の安全管理・危機管理に関すること	登別小学校	危険な自転車の乗り方や遊び方が見られるなど、地域での子ども達の生活について情報提供いただいた。	校外生活の決まりを見直すとともに、担任から自転車の乗り方・遊び方にかかる指導を行った。
学校行事に関すること	西陵中学校	子ども達が楽しく行事に参加できている。	既に改善が図られているため、特に改善した内容はない。
生徒指導・いじめ問題に関すること	青葉小学校	公園での遊び方やゴミの片付けなど、注意が必要な点について指摘を受けた。	学校だより、生徒指導だよりで保護者への啓発活動と継続的な学級指導を行う。
学校の施設設備に関すること	鷲別小学校	体育館の新築を強く要望する。	改築検討委員会を設置し、改築について検討を進めた。
教職員の配置などの要望に関すること	鷲別中学校	・学校に苦情を言う家庭の生徒でも、躾ができていないことが多い。保護者対応は大変だが、先生方は頑張ってほしい。	担任、指導部、管理職など全職員で、保護者対応に積極的に取り組んでいる。

評　　価	小中学校ともに、地域への学校だよりの回覧やホームページでの教育活動の紹介などに取り組み、広く情報提供に努めている。また、保護者や地域の人、学校評議員による学校関係者評価を実施し、広く外部からの意見を取り入れることができた。
今後の方向性	地域住民や保護者と学校が連携を深め、児童生徒の実態や地域の特性等を踏まえた特色ある教育活動の充実と活性化を図る。

項　　目	**6　小･中連携（連携教育）**
点検内容	出前授業や研修活動の交流のほか、幼児期と学校教育をつなぐ「幼・小連携」に取り組む。
取組状況	**○登別市幼小連携懇談会**　平成２４年２月２１日(火) 目　的：子どもたちが新しい環境に馴染めずに生じる様々な問題に対応するため、指導の連続性や望ましい校種間のあり方について検討し、円滑な接続が図られるようにするため、関係者により懇談会を実施した。 内　容：①現状と課題　幼稚園教育の現状と課題・小学校低学年の現状と課題 ②幼小連携した教育の推進　教育委員会からの説明 ③意見交換 ・登別市ではどのような連携が可能か？ ・基本的生活習慣、規範意識、運動能力などの解決方策は？ ・現在取り組まれている連携を拡げるためは？ ・連携するための体制のあり方は？ 出　席：白菊・白雪幼稚園長・リリー文化幼稚園長 鷲別小学校長・登別小学校長・若草小学校長 市教委：参与・学教G総括主幹　※市保健福祉部担当

○市内の幼稚園・保育所と小学校の連携

１日体験入学	２月上旬	小学校教育に慣れるために低学年と交流
授業参観	通　年	公開参観日：低学年の教室、児童の様子を参観
就学指導 情報提供 訪問観察	10 ～ 11 月	障がいが疑われる園児の情報提供 就学指導委員による訪問観察・聞き取りの実施
行事での学校利用	通　年	運動会等でのグランド・体育館・駐車場利用
初任者研修	９月頃	初任者研修(地域研修)で幼稚園・保育園実習
指導要録の引き継ぎ	３　月	幼稚園指導要録・保育要録の引き継ぎ
生活科等での交流	通　年	低学年生活科への幼児の招待

評　　価	これまでの小中の連携教育に加えて、幼小との一層の連携をめざした懇談会を実施し、園や学校の実態、連携について意見交換することができた。
今後の方向性	懇談会の意見を踏まえて、保育所・幼稚園での育ちや学びが、小学校にも円滑につなげることを意識しながら幼小の連携を推進していく。

項　　目	7　英語（国際理解）教育
点検内容	異文化に対する理解やコミュニケーション能力の素地を養うため、外国人の英語指導助手や英語補助員を配置し、英語に慣れ親しむ環境づくりを進める。
取組状況	○ネイティブな英語や外国人に慣れ親しむため、８月よりＡＬＴを２名から４名に増員し、学校に派遣する機会を充実させた。

平成２３年度ＡＬＴ派遣日数

小学校	幌別西小	72日	幌別東小	37日	青葉小	43日
	若草小	38日	富岸小	77日	鷲別小	41日
	登別小	35日	幌別小	40日	合　計	383日
中学校	緑陽中	84日	西陵中	59日	登別中	25日
	幌別中	60日	鷲別中	58日	合　計	286日

イングリッシュひろばの開催

日時	会場	補助員	ＡＬＴ	参加児童	内　　容
8/5	幌別西小	２名	３名	６名	カナダ・イギリスのお話
8/8	富岸小	２名	３名	８名	ゲーム・英会話
11/3	市民会館	２名	２名	１０名	４校の児童が英語で交流

○長期休業中に、ＡＬＴが主体となった英語教室を実施、英語に興味・関心のある児童の意欲を高めた。

○小学校の外国語活動、中学校の英語教育でのネイティブスピーカーとしての役割だけではなく、国際理解教育の一環として、総合的な学習の時間、特別活動、行事などにも積極的に参加した。

○授業とその準備のための教材研究、教材づくりに取り組むほか、学校行事や校外学習にも参加し、児童生徒とのコミュニケーションを図った。

評　　価	本年度より小学校で外国語活動が全面実施となったことに合わせて、ＡＬＴを増員し、すべての学校に派遣することができた。
今後の方向性	平成２４年度より中学校学習指導要領が全面実施され、英語の授業数が増加することから、ＡＬＴの一層の活用を図る。

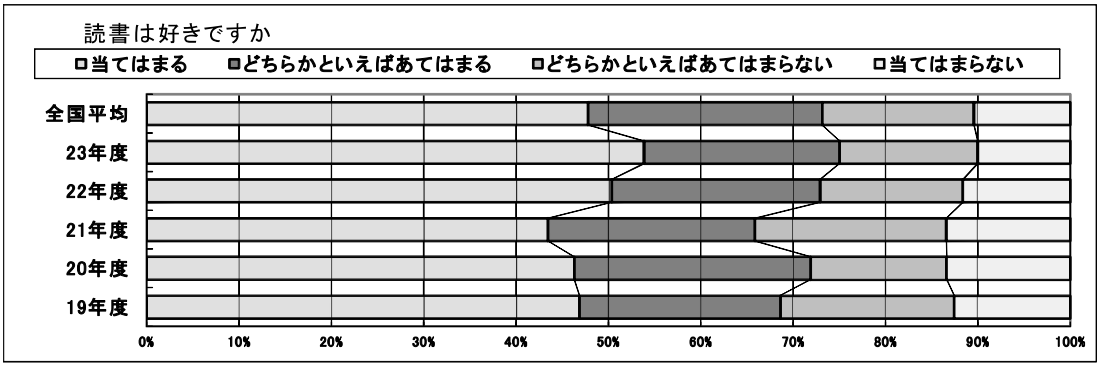
項　　目	8　学校図書館
点検内容	図書ボランティアと連携した朝読書や読み聞かせなどの読書活動の推進と多様な学習活動を促す図書資料の一層の充実に努める。
取組状況	

市内小中学校の図書ボランティアの状況　（H23.4現在）

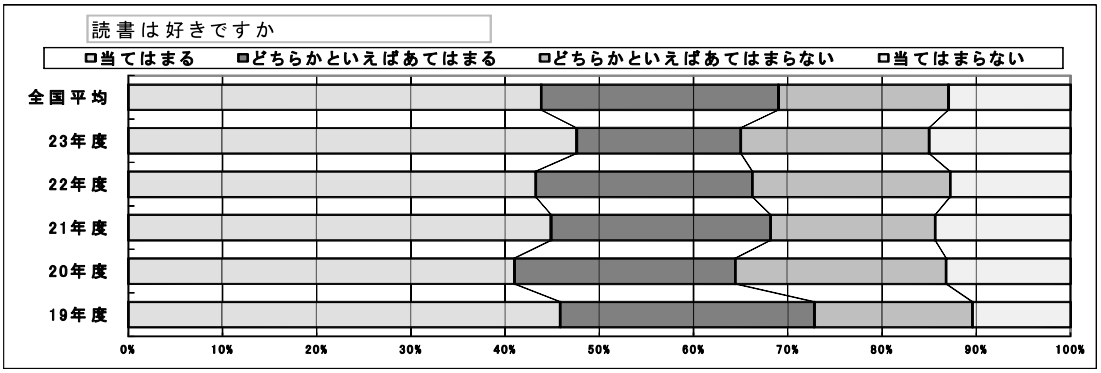
学校名	人数	活動日	ボランティア	日常的な活動	開始時期
緑陽中	10人	週2回程度	保護者、地域	新刊図書受入、図書整理、貸出の手伝い	平成22年
幌別中	(不定期2名)	月～金	地域の人	図書貸出返却支援　読み聞かせ	平成18年
鷲別中	14人交代	火・金午後	保護者、地域	図書室の環境整備	平成19年
鷲別小	5人	月2回	地域の人	読み聞かせ　こぐま号手伝い	平成17年
若草小	8人	月・水	保護者・地域	図書貸出返却支援、読み聞かせ、こぐま号の手伝い	平成17年

富岸小	7人	月～金	保護者	読み聞かせ	平成15年
青葉小	7人	毎週木曜日	保護者	読み聞かせ	平成19年
幌西小	19人	金	保護者	本の補修、図書室の環境整備、読み聞かせ	平成19年
幌別小	27人	月・火・木・金	保護者・地域	図書貸出・返却支援　図書の整理	平成7年
登別小	6人	週1日	保護者	図書整理、読み聞かせ	平成19年

小学校の読書状況（全国学力学習状況調査結果から）　小学校６年生



中学校の読書状況（全国学力学習状況調査結果から）　中学校３年生



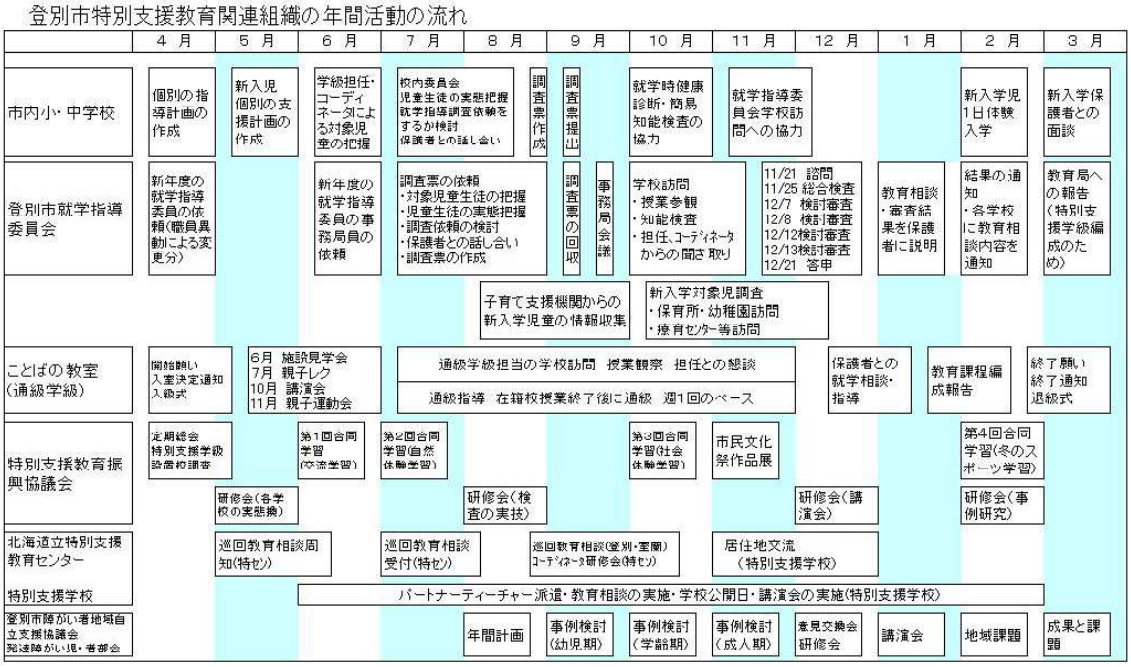
評　　価	すべての小中学校で10～15分の朝読書が実施され、地域や保護者の有志による図書ボランティア活動も小学校だけではなく、中学校でも取り組まれるようになり、読書環境が充実した。また、全国学力学習状況調査においても、読書が好きな児童生徒の割合を増加させることができた。
今後の方向性	・学校図書館が、自由な読書活動の場所、学びの場所として、子どもの育ちを支える拠点として整備していく。

項　　目	9　特別支援教育
点検内容	介助員や学習支援補助員を効果的に配置し、個別の支援計画などを基にした適切な指導が進められるよう学校の取組を支援する。
取組状況	

○特別支援教育関連組織の年間活動の流れ

市内の特別支援教育の全体像がわからないという声を受け、教育委員会が関係する団体とその主な年間の活動を一覧にして、学校関係者のほか、障がい者関係団体に紹介した。

登別市特別支援教育関連組織の年間活動の流れ



○市内小中学校の支援学級の状況

小学校	知的	９学級	１２名
	自閉情緒	８学級	２４名
	肢体	３学級	５名

中学校	知的	４学級	９名
	自閉情緒	４学級	１０名
	肢体	１学級	１名

支援学級担当教員	３１名
介助員	８名
学習支援補助員	１３名

評　　価	関係機関と連携して、特別支援教育を推進することができた。また、市内の小中学校の状況について、教育ふれあいウィークに合わせて、障がい者関係団体と懇談会を実施し、意見交流を図り理解を深めることができた。
今後の方向性	各学校のコーディネーターや教員の資質、指導力の向上を図るとともに、関係機関との連携を一層深めていく。

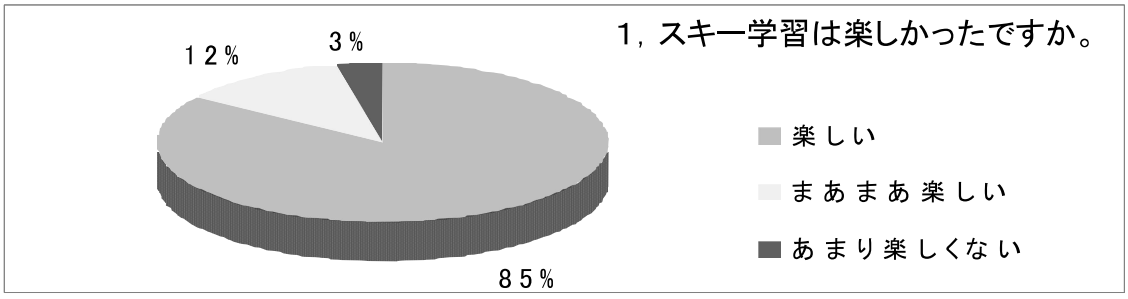
項　　目	**10　豊かな心の育成**
点検内容	ボランティア活動や自然体験、社会体験など特色ある教育活動や道徳教育の充実を図り、「生命の尊重や他人を思いやる心」、「規範意識や倫理観」などの醸成に努める。
取組状況	○道徳教育推進教師を指名し校内の道徳教育推進を図る。また、10/3に胆振管内道徳教育推進教師研修会（青葉小学校実践研究発表会）の実施 ○宿泊学習：小学校８校　ふぉれすと鉱山７校・ネイパル洞爺１校で実施 ○キャリア教育：中学校５校　市内公共施設・事業所等で実施 ○ボランティア活動 清掃活動：７校　リングプル等回収：７校　花壇整備等：３校 チャリティコンサート　　書き損じはがき・古切手回収：１校 介護施設での高齢者とのふれあい：１校

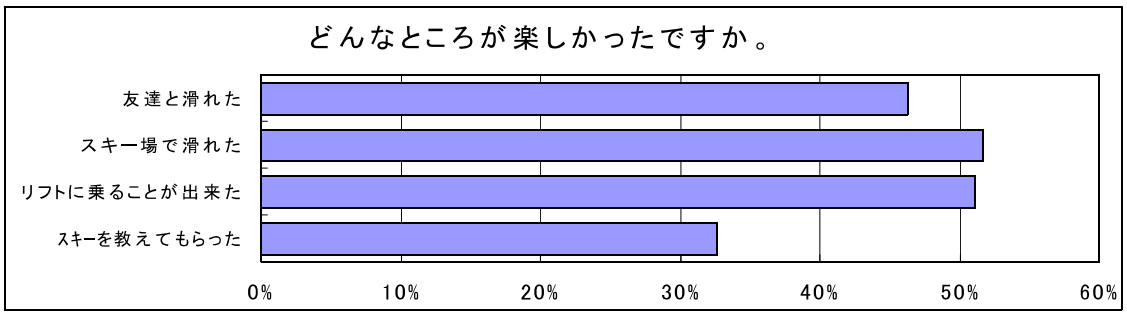
	○思いやりの心を育てる「人権教室」の開催（青葉小学校） 人権擁護委員が先生となり、小中学校で「いじめ」などをテーマにした人権啓発ビデオを観賞し、その感想を話し合うことなどを通じ、人権思想を身につけることを目的として実施した。
評　　価	創意工夫を生かした道徳教育、体験活動を生かした道徳教育や、地域人材の積極的活用による特色ある教育活動が展開され、豊かな心の育成に取り組むことができた。
今後の方向性	児童生徒一人ひとりが発達段階に応じ、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる人権教育を推進する。

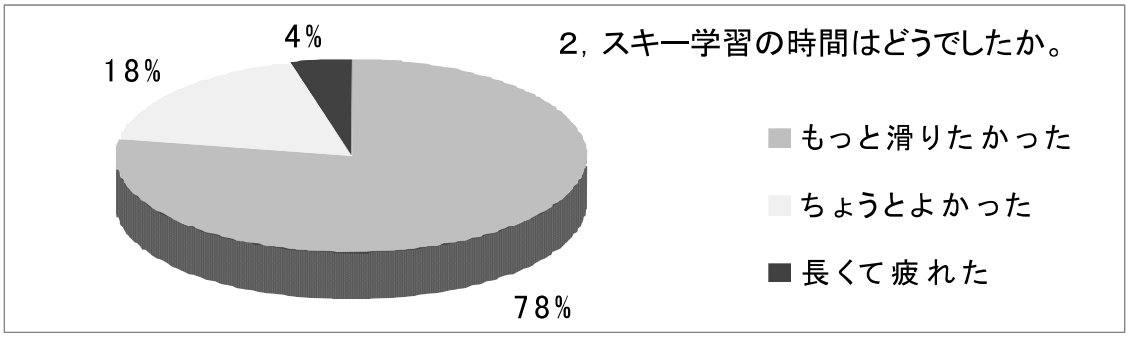
項　　目	11　健康や体力づくり
点検内容	各学校の体力向上を目指した学習指導や体育行事、部活動の活性化を支援するほか、子ども会やスポーツ少年団などと連携し、スポーツを通した体力づくりが推進されるよう努める。また、北国らしいスポーツの取り組みとして、小学校でのスキー学習モデル事業を拡充する。
取組状況	○新体力テストをすべての学校で実施した。 ○体力向上対策として、北海道の「どさんこ元気アップチャレンジ」などに基づき、１校１実践を推進した。 ○少子化等により学校の統廃合が進んでいることから、胆振の中体連の地区割りが見直され、近隣の市町と協議を進めた。 ○スキー体験モデル学習に、幌別小学校、幌別東小学校、幌別西小学校、若草小学校の４校で実施した。

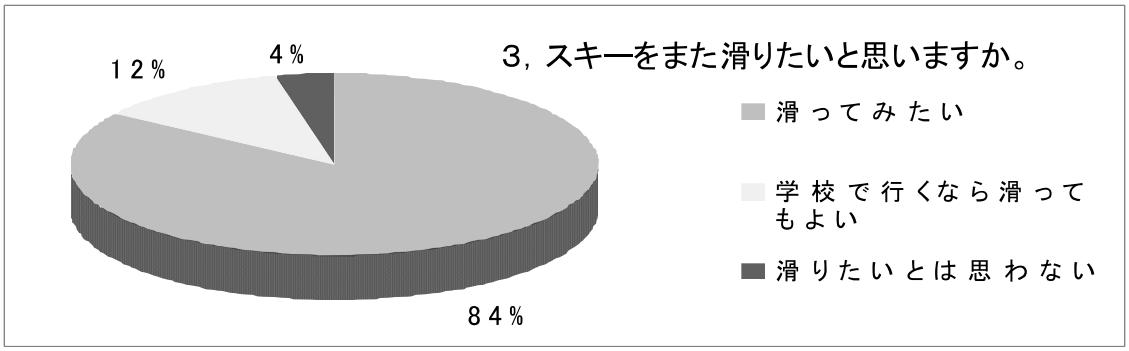
○スキー体験学習　児童への事後アンケート　　総回答数３５２名

対象校：幌別小・幌東小・幌西小・若草小



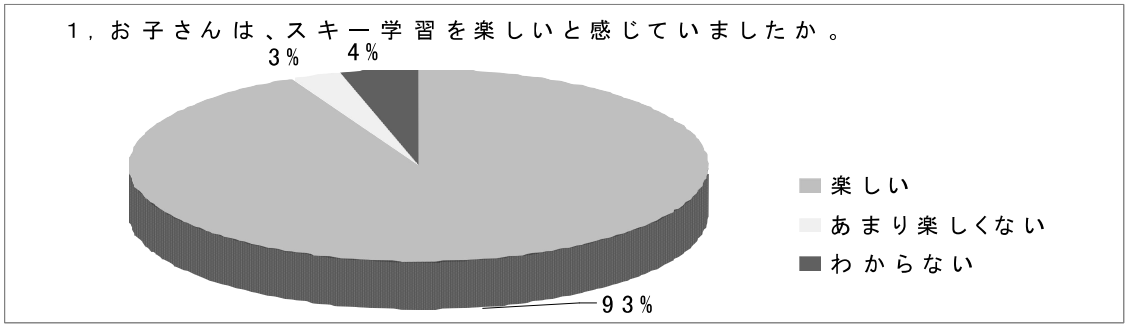


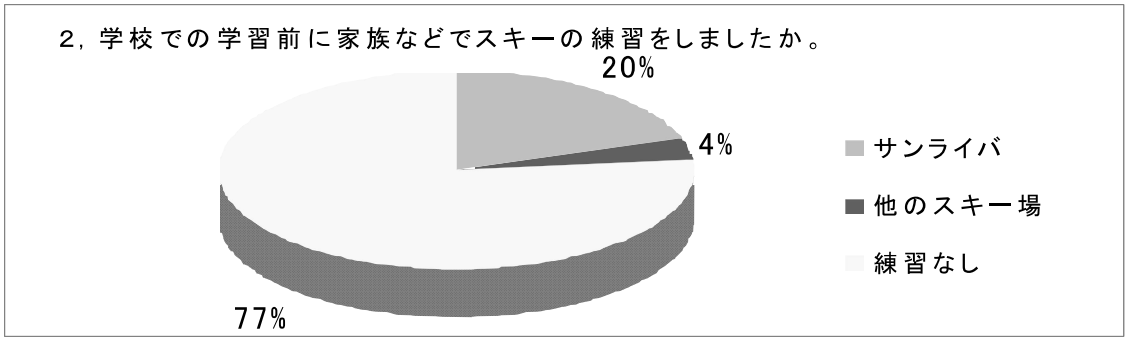


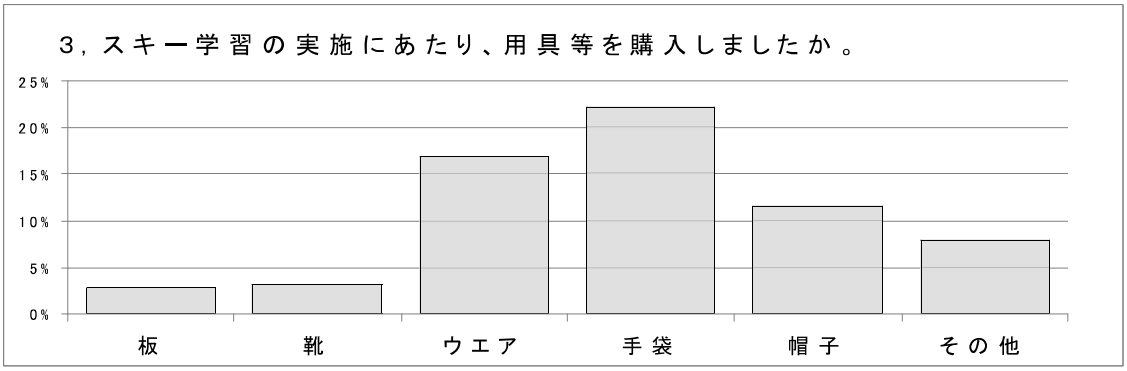


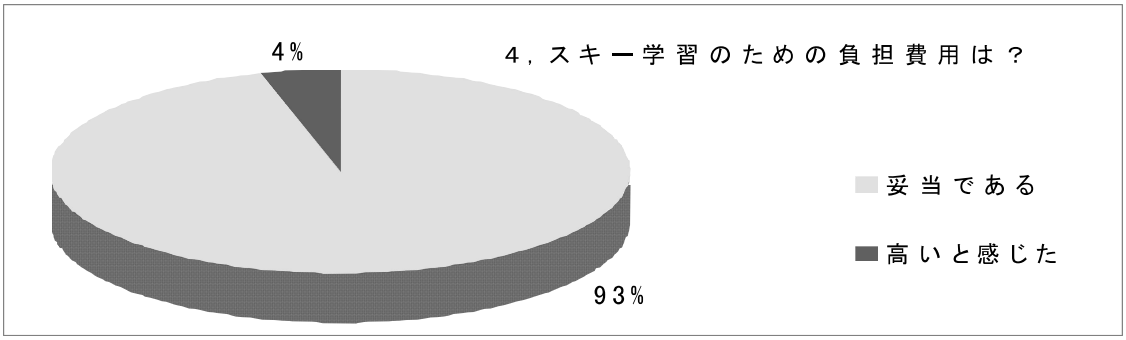
○スキー体験学習　保護者事後アンケート

対象校:幌別小・幌東小・幌西小・若草小　　総回答数　　278 件









スキー学習指導者・協力者人数

	スキー連盟	地　域	ＰＴＡ	教職員	合　計
幌別小学校	５人	１人	１３人	８人	２７人
幌別西小学校	６人	３人	４人	９人	２２人
幌別東小学校	５人	５人	５人	５人	２０人
若草小学校	５人	３人	０人	９人	１７人

評　　価	保護者アンケートの結果では、学校でのスキー学習の実施にあたり、６５家族が事前にスキー場にでかけ、そのうち、５５家族（およそ２０％）がサンライバスキー場で練習し、スキー学習をきっかけに、家族で冬のスポーツや地域の自然に親しんでいたことがわかった。参加児童の９０％が「楽しかった」「また滑ってみたい」と回答していた。
今後の方向性	サンライバスキー場との協力体制や用具の確保、費用負担、指導者など地域ボランティアのあり方などスキー学習に対する支援体制を児童・保護者の意見などを参考に２４年度末までに検証し、今後の継続的な実施に向けて検討する。

項　　目	**12　不登校・いじめなどの問題**
点検内容	「スクールカウンセラー」や「心の教室相談員」を活用し教育相談活動の充実を図るとともに、「不登校・いじめ等対策会議」や各種研修会を通して、情報の交流や関係機関との連携に努めるほか、いじめ問題では、児童生徒に対するアンケートや個人面談等を活用し「未然防止」と「早期発見」を図る学校の取り組みを促す。

取組状況	**「第１回教職員研修会」** 6/30 15:15 ～ ねらい 学校における教育相談技術等の習熟及び事例に応じた具体的な指導支援の在り方について研修し、指導力の向上に努めた。 講 師 北海道教育大学（函館校） 准教授 森谷 康文 氏 演 題 『スクールソーシャルワーカー活用事業のねらいとその役割』 **「第２回教職員研修会」** 11/29 15:15 ～ 講 師 登別市立緑陽中学校 校長 石垣 則昭 氏 演 題 『いじめの対応と予防』 「コミュニケーションハンドブック」～いじめの対応～を校長会とともに作成し、市内すべての教職員に配布し、具体的な対応策について啓発した。
評 価	６月の研修会では、本年度より配置したスクールソーシャルワーカー(SSW)について、北海道のエリアコーディネーターを招き講演会を実施した。11 月は、いじめについてワークショップ形式で具体的場面を想定した職員研修会を実施した。 SSW は、不登校児童生徒の家庭訪問を行ったり、関係機関が集まる要保護児童対策実務者会議に出席し、対象児童を取り巻く環境を理解すると共に今後の具体的対策を協議するなど、学校を支援する活動に取り組むことができた。
今後の方向性	SSW の活動は、学校だけでは対応しきれない不登校など児童生徒のおかれている環境の問題を理解し、課題を解決するために有効であるので、今後も関係機関と連携して児童生徒及び家庭への働きかけを進める。また、不登校児童生徒の再登校に向けた取組に一層努めていく。

項 目	**13 学校の耐震化**
点検内容	体育館の耐震補強工事を実施するほか、校舎や体育館の耐震診断を推進する。また、耐震強度が低かった鷲別小学校校舎及び体育館については、総合的に整備を図る必要があるので、「改築検討委員会」を設置し、具体的な構想の策定に着手する。
取組状況	○耐震化工事 青葉小学校体育館・登別中学校体育館 ６月～10 月 ○耐震診断(2 次) 鷲別中学校 校舎２(Is0.89) 校舎３(Is0.33) 校舎４(Is0.40) ○鷲別地区学校耐震化 地域懇談会7/19 学校耐震化計画の概要説明 地域住民からの意見・要望 鷲別小学校改築検討委員会 第１回10/11 座長決定 整備の視点の説明、質疑応答 第２回10/21 視察：室蘭市立旭ヶ丘小学校 視察者：委員７名 事務局7名 第３回11/18 充実した学校施設 放課後子ども対策 多目的な利用施設 第４回12/21 基本構想案の説明(改築の視点・敷地概要、新校舎のイメージ) 第５回 1/30 構想案の説明 校舎の位置・施設設備に対する意見 第６回 2/24 基本構想成案の提言 ※改築検討委員会だよりの発行(HP掲載、鷲別地区町内会回覧) １～３号
評 価	学校施設の耐震化については、診断優先度調査結果に沿って、耐震診断や耐震

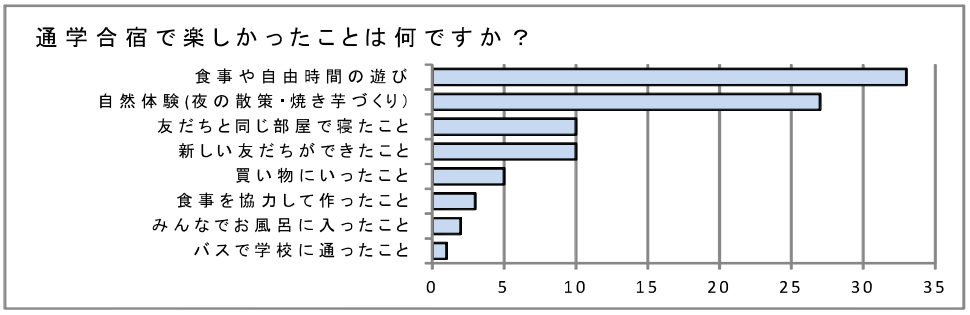
	補強工やを実施することができた。また、鷲別地区の学校耐震化については、住民説明会のほか、改築検討委員会を設置し、地域や学校、障がい者団体など意見ををもとに作成された「基本構想」の提言を受けることができた。
今後の方向性	耐震診断(富岸小)や耐震補強工事(幌別小・西陵中体育館)を計画に沿って進めるほか、鷲別小学校改築の「基本設計」を進める。

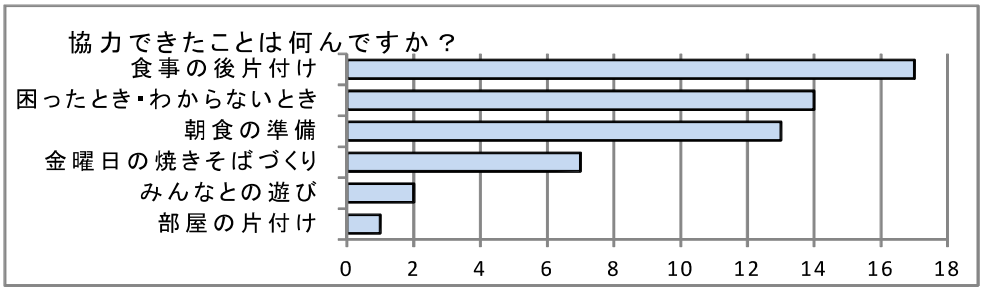
項　　目	**14　第四次社会教育中期計画**
点検内容	「第四次社会教育中期計画」の策定を終え、今後は、この計画に沿って、各種施策を推進する。
取組状況	事業と地域資源を精査し、連携方策や連携先等について具体的に探った。 事業内容や日程等の学習ニーズ把握に努め対象者等について検討した。 学習要求を把握して発表機会の内容や手法について精査を行い再構成した。 子育て世代のニーズ等を把握に努め、関係機関等との連携方策を検討した。
評　　価	市民の生きがいをより一層充実させるための方策に引き続き取り組むとともに、市民の要望や地域社会の要請などに応じた魅力ある学習機会の提供に務めることができた。
今後の方向性	地域の教育力の向上をめざし、奉仕活動、体験活動あるいは学校支援ボランティアの確立を目指した取り組みを推進する。

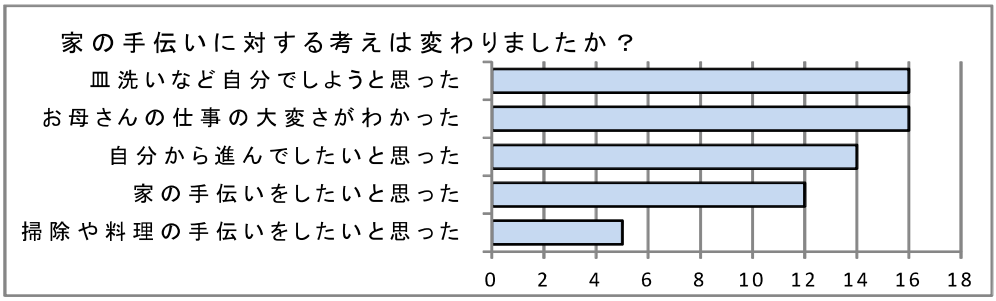
項　　目	**15　学校教育を支援**
点検内容	「学校支援地域本部事業」や「放課後子ども教室」は、今後も地域全体の協力をいただき拡充に努める。また、「通学合宿事業」は、学生ボランティアや関係団体の協力を得て充実を図る。
取組状況	○通学合宿「のぼりべつ・子ども村」 親元を離れて子どもたちの力で共同生活をしながら学校に通い、「自分のことは自分でする」「状況に応じて判断し行動する」など子どもたちの自主性や協調性、適応性などを伸ばし「生きる力」を身に付けさせるとともに、学年間、学校間交流を促進した。 開催時期と参加児童数 Ａ地区　１回目 10/4 ～ 10/8　２回目 10/18 ～ 10/22 幌別小･幌西小･幌東小･登別小　５年１０名　６年２２名　合計３２名 Ｂ地区　１回目 6/7 ～ 6/11　２回目 11/8 ～ 11/12 鷲別小･若草小･青葉小･富岸小　５年３５名　６年４８名　合計７３名 合　計　５年４５名　６年７０名　　計１１５名 事業協力団体等 子ども会育成連絡協議会・婦人短期大学同窓会 日本赤十字奉仕団・登別地区更生保護女性会 ＮＰＯ法人モモンガくらぶ　学生ボランティア 参加者への事後アンケート　回答児童数＝１０１名

通学合宿は楽しかったですか。	はい　　99	いいえ　　2

みんなと協力できましたか	はい　84	いいえ　17
バス通学は楽しかったですか	はい　96	いいえ　5







放課後子ども教室　平成２３年度

名 称 等	開設	登録者	開催日数	日平均	主 な 行 事
ひなわしメート(鷲別地区)	H20.6	135 人	96 日	37 名	宿題,百人一首､流しそうめんなど
はまなすメート(幌東小区)	H23.10	44 人	45 日	25 名	自習､ドッチボール､季節の行事など

評　　価	通学合宿は、学生ボランティアをはじめ、市内各種団体の多数の協力のもと運営することができた。また、参加した児童の大多数が楽しかったと感じ、その後の家庭での生活を見直すきっかけづくりとなっている。 放課後子ども教室は、学校の余裕教室や体育館を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）として、地域の方々の参画を得て様々な体験活動や交流活動などの取り組みを推進することができた。管理運営は、地区の実行委員会にが中心となって行った。
今後の方向性	放課後子ども教室の実施地区では事業が定着してきており、今後も地域の方の参画を得て、学校では学べないような学習活動を推進しながら、子どもの居場所づくりを進めていく。

項　　目	16　家庭教育
点検内容	ＰＴＡ、地域、関係機関と連携しながら、親同士の交流や子育てに関する学習などを通し、生活習慣や情報モラルなどの意識啓発を図り、家庭の教育力向上に努める。
取組状況	

○家庭教育学級の実施内容

ﾘﾘｰ幼稚園	7/4 調理実習　8/20 フォレスト鉱山体験　10/21 手芸教室
聖心幼稚園	6/1 調理実習　7/6 小児の救急処置と対処法　9/9 緑風園訪問　2/1 スイーツデコ制作
白菊幼稚園	6/1 食育　7/19 アウトドア　9/15 陶芸作り
白雪幼稚園	7/13 ふれあい交流　2/9 アイスキャンドルフェスタ
登別小学校	7/22･8/26 陶芸教室　10/5 パークゴルフ　11/9 社会見学(北広島市)
幌東小学校	7/13 篆刻(てんこく)づくり　9/29 講話東日本大震災　2/18 そば打ち体験
幌別小学校	6/21 雑巾づくり 7/13 ｽｳｨｰﾂづくり 9/30･10/8 陶芸に挑戦 12/6 ｽﾎﾟﾝｼﾞﾃﾆｽ 2/21 給食交流会
幌西小学校	7/14 キンボール　9/28 フルーツデコ　11/29 ヘルシークッキング
青葉小学校	7/2 ヘルシークッキング　9/28 施設見学(伊達･壮瞥)　11/22 給食交流会
富岸小学校	7/12 ボルタづくり　11/25 フロアカーリング　2/27 子育ての話
若草小学校	6/7 開級式　8/29 施設見学(千歳)　12/8 キンボール　2/22 ハーブ料理教室
鷲別小学校	6/20 料理教室　9/6･10/4 陶芸教室　11/28 食育講話･給食試食　2/17UV ﾚｼﾞｱｸｾｻﾘｰ

○家庭教育学級作品展　11/14 ～ 11/17　市民会館　出品数１４４点　出品者数８１名

評　　価	幼稚園や小学校を拠点として、各校の実態に応じて親同士が学習したいことを自ら企画し、計画的に活動を行うことができた。家族の触れ合いを深めることができる調理、工芸、工作、軽スポーツなどの体験的な行事のほかに、講話や講演による学習会を開催することができた。
今後の方向性	家族の触れ合いを深め合う方法を学習したり、保護者同士が協力し合って活動することで、新たな子育てネットワークづくりが進められるような幼稚園・小学校の家庭教育学級を推進する。

項　　目	17　青少年の健全育成
点検内容	情報化の進展により、生徒指導上の問題が広域化していることから、「青少年問題協議会」や「生徒指導担当者連絡会議」を通し、学校や関係機関との連携を深め、事件・事故の未然防止を図る。
取組状況	青少年が健やかに地域で育つ環境をつくるため、青少年指導センターによる巡回活動やこども１１０番の家の確認、青少年問題協議会を開催する。
評　　価	生徒指導担当者会議などを通して､各学校の実態を交流し、解決に向けた話し合いを進めることができた。
今後の方向性	インターネットによるいじめ、不適切な書き込みなど情報機器を活用した問題に対しても適切に対応できるように取り組みを強化する。

項　　目	18　子どもの安全確保

点検内容	青少年指導センターや町内会、各種団体と連携し、「子ども１１０番の家」や「地域パトロール活動」の充実、各学校での「防犯教室」の実施や「危機管理マニュアル」、「安全マップ」の点検などを促す。
取組状況	東日本大震災を受け、応急的な対策として、各学校で１学期中に、津波避難訓練の実施を促す。また、避難場所、所要時間、防災教育などの防災計画の変更を推し進める。

○市内小中学校の避難場所・避難訓練の状況　H23.7 現在

学校名	避難場所	避難場所への所要時間	避難訓練
幌別小学校	幌別中学校 H＝18m	全児童が避難場所に着く時間は、10分 体育館非常口から緑が丘公園から中学校へ	○6/7　簡易避難訓練。地震発生時の安全確保 ○1学期中：校外学習で実際に学年ごとに早歩きで避難
鷲別小学校	室蘭自動車学校上　H=30m ☆緊急時＝鷲中3階へ	室蘭総合自動車学校約　25分	○5/18　4年生が見学学習時に歩行訓練 ○5月中　全学年で，津波避難経路(高台)指導
若草小学校	室蘭総合自動車学校　H=30m 優和園上H=40m	低学年の徒歩 自動車学校=15分　優和園上=30分	5/6集団下校訓練時に大津波時の避難について講話 7月初旬：全校で実施
富岸小学校	緑陽中学校(富岸川を横切るため川の状況確認)H＝26m	約20分　到達時間が早く間に合わない場合は本校屋上へ(3階)	○5/11避難訓練時に津波の避難について講話 ○6月 3年社会 2年生活 4年社会科で避難場所まで歩く
青葉小学校	青葉小学校　H＝13m 青葉の森　H＝30m	青葉の森頂上へは、低学年の歩行で10分	○青葉の森の学習時に実施(5年生)
幌西小学校	望洋公園　H=80m	30分(1年生の歩行で。標高30m地点までは、約15分)	○7月20日　地震・火災想定訓練時に津波の時の避難方法の講話
幌東小学校	幌別中学校 H＝18m	約25分(低学年の小走り)	○6/9　全校避難訓練の実施(NHK・道新・室民取材) ◎津波警報発令を想定し全校児童で避難所まで避難
登別小学校	登別伊達時代村社員寮駐車場 H＝34m	約15分(低学年の歩行で)	○5月6日 避難訓練(地震・火災)時の点検指導 ○7月12日 小・中合同避難訓練を実施
緑陽中学校	緑陽中学校 H＝26m	各階の教室を避難場所とし、最終的に屋上へ 校舎に損害がある場合は、裏山に避難する。	○5/11地震による避難訓練。訓練後に消防署員による震災津波の様子、対処法について講話をいただく。
西陵中学校	望洋公園　H＝80m 校舎4階　H＝13.45m	徒歩で約25分(距離1.8km)	○7月4日 炊事遠足時に実施(1年生)
登別中学校	登別伊達時代村社員寮駐車場 H＝34m	15分～20分	○5/2　避難訓練時に消防署員から津波に対する講話 ○7/12　大津波を想定した小中学校合同の避難訓練
幌別中学校	本校1線3階及び屋上H=18m	約5分　2線校舎の2階、3階	○6月24日　1、2年　期末テスト終了時に実施 ○7月8日 3年 修学旅行前の避難訓練を兼ねて実施
鷲別中学校	①自動車学校H=30m②優和園」H=40m　③真宗寺H=20m	①室蘭総合自動車学校10分(1km) ②老人憩の家「優和園」20分(2km)	○3年生は、5/12修学旅行先で訓練を実施 ○6/6警報発令時の鷲別公民館まで行動訓練

評　　価	東日本大震災の教訓から各校では、子どもの安全確保のために防災計画の見直し、各学校の実情に応じた危機管理体制を整備することができた。
今後の方向性	学校における防災の考え方をはじめ、平常時に行っておくべき備え、災害発生時の対応、避難所として学校が果たす役割、心のケアなど、平常時、災害発生時、学校再開に至るまでの危機管理マニュアルの作成を促す。

項　　目	19　文化・芸術の振興
点検内容	登別市文化・スポーツ振興財団や各種団体との連携を図り、市民の自主的な文化・芸術活動の機会と、発表の場の提供に努める。また、ふるさとの発展の証を記録に残す「市民が記憶する歴史収集事業」を、郷土史研究会の協力を得ながら取り組む。
取組状況	○登別文化協会　３２団体　２０００名 機関誌・文芸誌の発行 第４７回市民文化祭への協力　道民・胆振芸術祭への協力 市民活動センターへの参画（のぼりん文化講座への協力） ○市民が記憶する歴史収集事業 登別市の過去を経験・記憶している方から聞き取り調査を行いその情報をデータベース化した。対象者：概ね６０才以上　登別に長く住み、過去の地域の出来事を記憶、経験している方
評　　価	市民が記憶する歴史収集事業では、３０名以上から当時の生活や風俗、文化、建物などの様子のほか、災害などの聞き取り調査を行うことができ、まちの歩みを記録することができた。
今後の方向性	地域に根ざした文化振興活動や文化団体への活動を支援することで市民が文化に親しめるまちづくりの推進に寄与する。

項　　目	20　スポーツの振興
点検内容	各種スポーツ教室や健康の維持・増進を図る講習会などを開催するとともに、総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」の育成・支援、体育協会や各種団体との連携を図り競技力の向上に努める。
取組状況	市民ラジオ体操の実施（鷲別小・若草小）：延べ１９９名参加 市民スポーツ健康フェスティバルの開催 ノルディックウォーキング講習会の実施　６回(鷲別地区)１３３名 ウォーキングマップの作成(新生、鷲別･若草町、鷲別川･美園町周辺)
評　価	ラジオ体操には、幅広い年代層から参加していただくとともに、ノルディックウォーキング講習会にも多数の市民の参加をいただき、スポーツの振興を推進することができた。
今後の方向性	登別市スポーツ振興基本計画でめざす市民の健康増進や体力づくりのための事業を推進しスポーツへの参加意識を向上させる。

項　　目	21　学校給食
点検内容	地場産の食材や姉妹都市白石市の物産を活用した登別らしい給食の充実に努めるとともに、衛生管理の徹底を図り、安全・安心でバランスのとれた給食の提供に努める。
取組状況	○登別市学校給食展

	栄養教諭の話：生産者の声、手洗い講習会 食育材料の展示、地元納品業者の紹介 登別牛の使用した学校給食　1/25 牛丼　1/26 キーマカレー
評　　価	東日本大震災の影響で白石市の物産を活用した給食を実施することはできなかったが、地元登別牛を使用した給食をつくり、学校給食展の中で、市民にも試食していただくことができた。
今後の方向性	引き続き、安全で安心な給食の提供に努めるほか、地元産の食材を利用するなど食育の充実に努めていく。

項　　目	**22　図書館**
点検内容	図書資料や郷土資料の充実、ボランティア団体との協働による読み聞かせ会や講演会、各種講座を開催するなど、一層の図書館活動の推進に努める。また、西胆振三市の図書館ネットワークの広域化事業に参入し三市間での図書検索など利便性向上に努める。
取組状況	○平成２３年度子どもの読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰受賞 ○学校図書システムの共同化（登別、室蘭、伊達） ○図書館ネットワークサービス広域化事業（登別、室蘭、伊達） （インターネットで蔵書確認、本の予約、図書館カードの３市共有化）

○主なイベント等の事業

5/21　絵本作家講演会・原画展　講師：長野ヒデ子氏『絵本と紙芝居のこころパチクリ』

6/18　絵本作家講演会・原画展　講師：ひだのかな代氏『親子はやっぱりハグなんです』

6 月　子ども読書活動推進「読書感想画」：市内幼･保児　応募２５０作品

10/4　絵本の読み聞かせと影絵の夕べ：東京の影絵ｸﾞﾙｰﾌﾟあけびの会　市内読み聞かせ団体　来場者：２６０名

10 月 図書館まつりﾌﾟﾚｲﾍﾞﾝﾄ　日本工学院学生が作家宮西達也の絵本キャラクターのオブジェ製作

11/4　図書館まつりﾌﾟﾚｲﾍﾞﾝﾄ　講師：元劇団えるむ団員佐藤正敏氏『実践お話・読み語り講座』

11/6　第７回図書館まつり　おはなし会や朗読劇、お茶会、写真展、手話、囲碁・将棋教室など　参加：７５０名

11/6 ～ 11/13 のぼりべつの図書館を考える会：「東日本大震災　被災図書館写真展」

11/12　ライブラリーツアー石狩市民図書館視察

12/17　小・中学生の読書感想文・読書感想画コンクール入賞者表彰式

読書感想文応募：小学校 267 名・中学校 84 名の応募　入選：小学校 45 名・中学校 20 名

読書感想画応募：小中学校 18 名　入選 9 名　文集『本は友だち』第 37 号発行

1/21　文化講演会「温泉文化史東西話」講師：室蘭ふくろう文庫代表　山下敏明氏

2/17　図書館講演会：「障がい者サービスと最近の視覚障がい者向けメディア」　講師：北海点字図書館・南部慶太 氏

2/18　読み聞かせ研修会：「絵本から読み物へ・・・読み聞かせであとおし」

安齋久子氏（子どもの本の専門店「どりーむきゃっちゃー」札幌市）

○新規事業

名画鑑賞会　月第２土曜　北海道立視聴覚ライブラリーの映画上映

絵本の部屋での読み聞かせ　月第３木曜

国立国会図書館レファレンス共同データベースへの参加

評　　価	読書に関するイベントや図書システムの広域化、ネットワーク化を通して、市

	民多様なニーズに応える体制づくりの整備と読書への関心を高める事業を進めることができた。
今後の方向性	西胆振３市間での相互利用サービスの実施と図書の充実を図り、魅力ある図書館づくりを進める。

３ 重点施策の評定結果

	項　　目	点　検　内　容	評定
1	信頼される学校づくり	「学校教育基本計画」に基づき、学校、家庭、地域の連携のもと、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。	A
2	新学習指導要領への対応	移行期間の取り組み状況を踏まえ、指導内容の変更や授業時数の増加などの改訂事項が的確に実行されるよう各学校の取り組みを支援する。	A
3	学力向上対策	「学力向上プラン」に基づき、各学校が進める指導方法の工夫・改善の取り組みを支援するとともに、学校と家庭の連携による学習習慣や生活習慣の確立を図り、基礎・基本の着実な定着を図る。	A
4	教職員の指導力向上	教育実践奨励校を指定し、主体的な校内研究の実施を奨励するとともに、若手教員の資質向上を目指す「巡回指導教員活用事業」に取り組む。	B
5	開かれた学校づくり	教育活動の状況等、学校の様々な情報の提供に努めるとともに、学校評議員や学校評価等を積極的に活用し、学校、家庭、地域が一体となった機動的な学校運営の推進を図る。	A
6	小・中連携（連携教育）	出前授業や研修活動の交流のほか、幼児期と学校教育をつなぐ「幼・小連携」に取り組む。	B
7	英語（国際理解）教育	異文化に対する理解やコミュニケーション能力の素地を養うため、外国人の英語指導助手や英語補助員を配置し、英語に慣れ親しむ環境づくりを進める。	A
8	学校図書館	図書ボランティアと連携した朝読書や読み聞かせなどの読書活動の推進と多様な学習活動を促す図書資料の一層の充実に努める。	A
9	特別支援教育	介助員や学習支援補助員を効果的に配置し、個別の支援計画などを基にした適切な指導が進められるよう学校の取組を支援する。	B
10	豊かな心の育成	ボランティア活動や自然体験、社会体験など特色ある教育活動や道徳教育の充実を図り、「生命の尊重や他人を思いやる心」、「規範意識や倫理観」などの醸成に努める。	B
11	健康や体力づくり	各学校の体力向上を目指した学習指導や体育行事、部活動の活性化を支援するほか、子ども会やスポーツ少年団などと連携し、スポーツを通した体力づくりが推進されるよう努める。また、北国らしいスポーツの取り組みとして、小学校でのスキー学習モデル事業を拡充する。	B
12	不登校・いじめなどの問題	「スクールカウンセラー」や「心の教室相談員」を活用し教育相談活動の充実を図るとともに、「不登校・いじめ等対策会議」や各種研修会	A

		を通して、情報の交流や関係機関との連携に努めるほか、いじめ問題では、児童生徒に対するアンケートや個人面談等を活用し「未然防止」と「早期発見」を図る学校の取り組みを促す。	
13	学校の耐震化	体育館の耐震補強工事を実施するほか、校舎や体育館の耐震診断を推進する。また、耐震強度が低かった鷲別小学校校舎及び体育館については、総合的に整備を図る必要があるので、「改築検討委員会」を設置し、具体的な構想の策定に着手する。	A
14	第四次社会教育中期計画」	「第四次社会教育中期計画」の策定をし、今後は、この計画に沿って、各種施策を推進する。	A
15	学校教育を支援	「学校支援地域本部事業」や「放課後子ども教室」は、今後も地域全体の協力をいただき拡充に努める。また、「通学合宿事業」は、学生ボランティアや関係団体の協力を得て充実を図る。	A
16	家庭教育	ＰＴＡ、地域、関係機関と連携しながら、親同士の交流や子育てに関する学習などを通し、生活習慣や情報モラルなどの意識啓発を図り、家庭の教育力向上に努める。	B
17	青少年の健全育成	情報化の進展により、生徒指導上の問題が広域化していることから、「青少年問題協議会」や「生徒指導担当者連絡会議」を通し、学校や関係機関との連携を深め、事件・事故の未然防止を図る。	A
18	子どもの安全確保	青少年指導センターや町内会、各種団体と連携し、「子ども１１０番の家」や「地域パトロール活動」の充実、各学校での「防犯教室」の実施や「危機管理マニュアル」、「安全マップ」の点検などを促す。	B
19	文化・芸術の振興	登別市文化・スポーツ振興財団や各種団体との連携を図り、市民の自主的な文化・芸術活動の機会と、発表の場の提供に努める。また、ふるさとの発展の証を記録に残す「市民が記憶する歴史収集事業」を、郷土史研究会の協力を得ながら取り組む。	A
20	スポーツの振興	各種スポーツ教室や健康の維持・増進を図る講習会などを開催するとともに、総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」の育成・支援、体育協会や各種団体との連携を図り生涯スポーツの振興と競技力の向上に努める。	A
21	学校給食	地場産の食材や姉妹都市白石市の物産を活用した登別らしい給食の充実に努めるとともに、衛生管理の徹底を図り、安全・安心でバランスのとれた給食の提供に努める。	A
22	図書館	図書資料や郷土資料の充実、ボランティア団体との協働による読み聞かせ会や講演会、各種講座を開催するなど、一層の図書館活動の推進に努める。また、西胆振三市の図書館ネットワークの広域化事業に参入し、三市間での図書検索など利便性向上に努める。	A

Ⅳ 点検･評価に関する学識経験者の意見等

平成２３年度教育委員会点検・評価報告に関する意見等

石井　憲一

平成 23 年度の教育委員会点検・評価報告は全体として概ね妥当と考えます。PDCA の結果として項目の立て方あるいは個別の項目の内容等が合理性を以って変更されているところも感じられますが、点検・評価の対象として必要であろう部分が隠れてしまっているところも散見されます。この部分については以下の意見の中で示させて頂きます。

さて、教育委員会の活動状況の概況報告(「定例会議」、調査活動の実施)に関しては粛々と取り組まれたことが確認できました。公開研究会の視察等も 7 回を数え、十分な活動がなされたものと理解されます。12 回の会議（議案 13、報告 15、協議 1、情報提供 45）は適正に審議等が行われたものと推察しますが、22 年度の意見にあった議事録の公開等に進展がないのは残念です。また、議案の大半が規則・条例改正等であって昨今喫緊の話題となっている『いじめ・不登校』などへの委員会としての対応などの審議も考えられます。議案としての妥当性は別にしても対処方針の検討も是非お願い致します。

次に、重点項目の点検・評価について、平成 23 年度教育委員会活動の指針となるであろう 4 つの基本的計画、すなわち(1)学校教育基本計画(2)社会教育中期計画(3)文化振興基本計画そして(4)スポーツ振興基本計画で掲げられた主要な政策及び推進項目総計 61 項目に対し前年度までに目標を達成している項目等との複合性から２８項目(小項目を含む)を採用し、かつ新規重点項目を加えた２２項目に集約して重要施策として評価され、「達成しているもの」６８％、「おおむね達成しているもの」３２％という結果でありますが、達成度は昨年度の評価に比して１０ポイント減となっているものと思います。

特に気付く所として、「おおむね達成しているもの」の項目中この 3 ヶ年間明らかな進展のないものが３項目(『家庭教育』『豊かな心の育成』『健康や体力づくり』)あり、いずれも家庭と学校の連携に重点のある項目として、更なる改善への方策の提言が求められると考えます。

改めて具体的に見ますと、朝自習の導入などで評価が良好になって来た『学力向上対策』ですが、得られた結果はまだ満足すべきものでは無いと考えます。家庭との連携において進展があるとの評価と同時に学習の密度の阻害要素への対処が今後課題となります。あわせて、『教員の指導力向上』が１段落下がった評価になっていますが、どうも「資質能力の向上」から目指すところが異なっているように思われます。『不登校・いじめの対応』は「達成しているもの」とされて、この項に関する意見として教育委員会の活動状況の項でも述べましたので重複は避けたいと考えます。ただし、昨今のわが国における状況を鑑みるに「今後の方針」で示された対応には「量」だけではなく「質」の観点から注視していって欲しいと考えます。『子どもの安全確保』の項は昨年度にあっては「子どもの安全・安心な環境の確保」という括りでしたので、残念ながら「安心」

の観点が消えています。ちなみに、ホームページによれば、平成 21 年 11 件、平成 22 年 6 件と一見好転していたように思われる「不審者・変質者」情報が平成 23 年は 38 件と急増しています。この理由については詳らかではありませんが、防災等安全教育への対応と通学路等における「安心」は並列し点検すべきと考えます。

３市(登別市・室蘭市・伊達市)のシステム統合により著しく利便性の増した『図書館』とボランティアの導入や朝読書などで進展した『学校図書館』は評価されます。また、新たな評価項目としての『学校の耐震化』の進展も評価されますが、『小・中連携（連携教育)』と『英語（国際理解）教育』については今後もしっかりと点検・評価をお願い致します。22 年度の評価で「達成しているもの」となり点検のなくなった『情報教育の推進』は分散点検（例えば、3 項目や 16 項目）となっていますが、現状は情報の取り巻く環境が絶えず新たな展開を示していると考えられますので、改めて単独の「点検・評価」がなされるべきと考えます。

最後に、平成 21 年度に掲げられた登別の歴史とアイヌ文化の理解を深める知里真志保生誕 100 年事業が 22 年度に大いに進捗し、知里森舎「知里幸恵　銀のしずく記念館」が完成しています。ところで、市内小中学校あるいは高校の施設活用状況はどうなっているでしょうか。また、教育委員会にはお 2 人の若手学芸員が配置され、それぞれの分野での活躍がニュース等に成っている事は頼もしい限りです。いずれも登別市の歴史・文化教育の担い手として今後、学校教育の場面でより有機的な活用がなされることを期待し、点検・評価についてもお願い致したいと思います。

以上

平成２３年度　教育委員会点検・評価報告に関する意見等

浅 野　　清

近年いじめによる自殺事件が大きな社会問題になり、その度に学校や教育委員会や警察の対応の不手際が父母や教育評論家やマスコミによって指摘させ、社会不安の状況にある現代日本における教育諸問題の深刻さに憂鬱になる。誰が一番悪いという犯人探しではなく、教育現場や教育行政や PTA や教育関係者が一丸となって謙虚な姿勢で連携・連帯し、児童生徒の健全育成に誠心誠意努めなければならない。今はこのいじめ自殺への対策が緊張感を持って取り組まなければならない緊迫した時期である。ただこの取り組みは単純ではなく、対処的に取り組むのではなく教育の根幹の問題であり、人間教育そのものである。本市においては幸いそのような不幸な事件が発生していない。これは学校・教育委員会・PTA・地域の緻密な連携・協力の下に、各学校の全教職員が学校長を中心に真剣に児童生徒に向かい合っているからである。日頃、そのための指導力を発揮している教育委員会の労を労い、更に謝意を示したい。

この度「平成２３年度登別市教育委員会点検・評価報告書」を初めて拝見したが、日頃の教育現場への緻密な配慮と指導振りがよく分かり、興味深かった。

以下、私見を述べる。

一，教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会は毎月の定例会議のみであり、緊急の臨時会議は開かれなかったそうであるが、これは「平和」であり、大変結構なことである。しかし他の地域の事件を対岸の火事と傍観せず、いつでも当市でも起こりえる事件と主体的に受けとめ、その時は臨時会議を招集し、真剣に討議し、対策を練って頂きたい。

二，重点施策の評価

１，信頼される学校づくり

従来「ふれあい DAY」として実施していた行事を「教育ふれあいウィーク」と改名し、約１週間の間にいろいろ教育行事を実施することは市民の目にもよく見える活動であり、その効果は非常に高い。多くの父母や児童生徒が参加するためにはそれぞれの行事の内容について斬新なアイデアとＰＲが必要である。今後の創意工夫を期待する。

２，小学校イングリッシュ広場

興味深い行事であるが、保護者の送迎の関係で参加人数が定員割れだったそうだが、ちょっと残念だ。児童の参加しやすい方法を検討すべきである。異文化体験、他校の児童との交流など素晴らしい成果を発揮している。どのようにして多くの児童を集めるか創意工夫が必要だ。

３，全国学力学習状況調査の全体的考察

小学校は国語・算数Ａ・Ｂとも全道の平均正答率を超え、中学校は全国平均に近づきつつあるそうだ。素晴らしいことだ。これは教育委員会の指導の下の各学校の現場の先生方の学力向上のための創意工夫の努力と苦労の賜物である。学校の視点で考察すると、各学校の校内研修と自己研修の成果が授業の質の向上に結び付き、児童生徒の学習意欲を高め、学力の向上に寄与したのである。「継続は力なり」の趣旨で今後とも授業の創意工夫に努め、「楽しく、より分かり、明日のエネルギーとなる」授業を各学校で先生方全員の熱意と英知で創造して頂きたい。

なお、中学校では国語は AB とも「記述式問題」は正答率が低いそうだが、これは普段の授業展開に原因を求めるべきである。普段の授業で、口頭発表を重視しても、じっくり思考し、口頭発表の以前に「分かったこと、自分の意見など」をノートに筆記することである。つまり、日頃の授業で「文・文章を書く学習」をもっと重視しなければならない。また、日頃作文の指導にもっと力を入れて実践することが肝要である。

小学校では国語より算数の好きな児童が多いが、中学校では数学の好きな生徒が過去５年間で一番低いそうだ。これは将来の日本の発展を考えると、非常に憂慮すべき問題である。数学の学習意欲をどのように高め、維持するか、現場の先生方の創意工夫が緊急の課題となる。算数・数学の授業の工夫や宿題の内容の工夫など課題は山積している。学習のつまずきは不登校の原因になる傾向が強いので、充分に警戒が必要である。「研修は教師の命」の信念で校内研修の強化をすべきである。

４，巡回指導教員活用事業

授業は教師の授業への情熱と子供への愛情・理解と緻密な授業設計と諸準備によって構成される。それはある程度の熟練が必要である。そのため、教職員の指導力を向上さ

せるための研修が重要な役割を果たす。各学校での校内研修の重視と共に、本市では「巡回指導教員活用事業」を実施している。これは素晴らしい着眼であり、その実践内容と成果が注目される。これは児童生徒の学習意欲や学力の向上に結び付く注目すべき全市的な実践である。長い目で見守っていかなければならない。

５，学校図書館～授業の中での「調べ学習」の重視を

「朝読書」「読み聞かせ」などの教育活動が取り上げられており、それぞれがそれなりの大きな効果を上げているようであり、素晴らしいことである。ただ、「調べ学習」についてその実践の重要性について触れていないのは残念だ。私は学校図書館司書教諭の資格を所有しているが、読書教育において最も重要な課題は「調べ学習」であり、授業の中で、図書館で課題を調べる場を必要とする授業設定をし、個人またはグループで図書館において課題を調べる、そして授業の中でそれぞれが発表をし、意見交換をする。その体験の積み上げが読書週間を身につけ、学習意欲を高め、学力の向上に結び付く。

学校図書館はその「調べ学習」を支援する「人（司書・担当の先生)」と「資料（図書)」を提供する任務がある。

「朝読書」は読書の習慣付けになり、「読み聞かせ」は地元のサークルや PTA のお母さん方の協力による支援である。「読書カード」「学年ごとの必読書のリスト」「各学年の教科ごとの単元ごとの参考文献のリスト」などの作成が必要であり、各学校図書館ではそれら参考文献の図書を本棚に年次計画で揃えなければならない。教育委員会は数年計画でその予算措置をしなければならない。また、各学校の所蔵図書についての情報交換が必要である。更に先生方による実践交流の場も必要である。それらを物心にわたって支援するのが市立図書館や教育委員会の任務である。

６，豊かな心の育成

教育を伝統的な視点で見ると、知育・徳育・体育である。その中で、「生命の尊重や他人を思いやる心」「規範意識や倫理観」を育成するのが徳育である。現代社会での荒廃した風潮の中で、大人社会でのこれらの道徳観の低下には驚くばかりである。児童生徒の規範となるべき大人社会の言動の破廉恥さは当然成長期の人間の価値観に多大な影響を与える。だから、学校教育こそ徳育に力を入れなければならない。本市での取組の豊かな実践とその成果を期待する。特に私が興味を持ったのは、「人権教室」の実践である。ぜひ、市内全部の学校で、先進校に学び、実践して頂きたい。この成果は児童生徒の日常生活に必ず良き影響を与えるものと信じる。それと、「介護施設での高齢者とのふれあい」の実践である。これは一回で終えるのではなく、複数回の実践によってより効果的になる。ぜひ他校も参考にして頂きたい。

７，不登校・いじめなどの問題

これは日頃の学校教育の全国的共通課題である。いじめ自殺が発生すると、テレビの画面に学校や教育委員会の関係者の憔悴しきった顔が並び、いろいろと言い逃れをする醜い場面が放映される。誠に情けない恥ずかしい場面である。もっと驚くのはノイローゼになった校長の自殺である。一体、日本の学校教育はどこに行ったのであろうか。

幸い当市ではそのような問題が発生していない。これは日頃の教育委員会の指導の適

切性と現場の先生方の献身的な熱意による児童生徒との触れ合いの実践の成果である。日頃の先生方の愛情豊かで熱心な教育実践に誠意を示し、その労苦をねぎらいたい。

８，知里幸恵、知里真志保、金成マツの紹介とアイヌ民族についての教育

登別市はアイヌ民族の三傑の偉人を輩出した地域である。つまりアイヌ民族の伝承文芸のユーカラを同民族で初めてローマ字で記録し、美しい日本語に翻訳した天才の夭折した女性知里幸恵、アイヌ民族の言語や文学を研究し、多くの実績を残した天才の北大教授知里真志保、ユーカラの伝承者で膨大な量の記録を残した金成マツ。

この三傑は登別の歴史と風土が生んだ偉人として尊敬されるべきである。学校教育でも社会教育でも、地域でももっともっと重視すべき人物である。この三傑をどのように教材化するか、なかなか難しいであろうが、教育委員会主導で伝記の読本づくりや教材化を試みてはどうであろうか。

＜後書き＞

いろいろと気付いたことがあるが、このように絞って書いてみた。久しぶりに教育論の私見を展開したが、何か血潮がたぎるものを感じた。やはり自分は教育の専門家であったのだと感慨にふけている。関係者の皆様のご参考になるか、どうか不明であるが、けっして老人の妄言ではないつもりである。登別が「教育の街」になることを祈念する。

Ⅴ 評価のまとめ

平成２３年度の登別市教育委員会の重点施策として点検・評価で取り上げた２２項目の評定結果は、

Ａ：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５項目
Ｂ：おおむね達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・　７項目
Ｃ：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・・　０項目
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・・・・　０項目

であり、教育行政執行方針に沿って適切な教育行政の執行がなされたと考えております。

今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。

また、ＰＤＣＡ（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

Ⅵ 参 考 資 料

１　平成23年度教育行政執行方針

２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

３　平成23年度　各種基本計画の進捗状況

- 学校教育基本計画
- 第4次社会教育中期計画
- 文化振興基本計画
- スポーツ振興基本計画

１ 平成２３年度教育行政執行方針

平成２３年、第１回登別市議会定例会にあたり教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。

現在、我が国では、少子高齢化や高度情報化、グローバル化の進展など、社会が急速に変化を遂げる中、低迷する雇用・経済情勢も加わり、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化してきております。

このような中、教育の分野においては、「学力や学習意欲」、「体力や運動能力」の低下、「規範意識の欠如による問題行動」の増加など、様々な課題が指摘されており、これらの課題に適切に対応していくことが求められております。

教育は、「人格の完成を目指し、心身ともに健康な人間の育成と同時に、社会の形成者として必要な資質を備えた人間を育成する」という使命を担うものであり、このことは、いかに時代が変わろうとも普遍的なものであります。

教育委員会といたしましては、「人材の育成は豊かな未来をつくり上げるための礎である」との認識に立ち、関係部局や関係団体との連携を図りながら、「社会の変化に対応していく、力の育成」や「市民一人ひとりの学びの環境づくり」など、教育行政の着実な推進を図ってまいります。

以下、平成２３年度の重点項目について申し上げます。

はじめに、学校教育についてでありますが、

これからの学校においては、子どもたちが将来に夢と希望をもち、たくましく生き抜いていく基盤となる「調和のとれた人間性」を育むことが必要であります。

教育委員会としては、平成２３年３月に策定した「学校教育基本計画」に基づき、学校、家庭、地域の連携のもと、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、信頼される学校づくりを推進してまいります。

新学習指導要領への対応については、移行期間の取り組み状況を踏まえ、指導内容の変更や授業時

数の増加などの改訂事項が的確に実行されるよう各学校の取り組みを支援してまいります。

学力向上対策については、引き続き、全国調査の結果を踏まえ策定した「学力向上プラン」に基づき、各学校が進める指導方法の工夫・改善の取り組みを支援するとともに、学校と家庭の連携による学習習慣や生活習慣の確立を図り、基礎・基本の着実な定着を目指してまいります。また、各学校が長期休業中に補充的な学習に取り組むよう促すとともに、学校支援地域本部事業などを活用して、土曜日に学習サポートができる、体制づくりを進めてまいります。

教職員の指導力向上については、引き続き、教育実践奨励校を指定し、主体的な校内研究の実施を奨励するとともに、若手教員の資質向上を目指す「巡回指導教員活用事業」に取り組んでまいります。

開かれた学校づくりについては、教育活動の状況等、学校の様々な情報の提供に努めるとともに、学校評議員や学校評価等を積極的に活用し、学校、家庭、地域が一体となった機動的な学校運営の推進を図ってまいります。また、学校一斉公開日「ふれあいＤＡＹ」を「北海道教育の日」と連動させ、教育週間として教育講演会など、教育の課題に対応した各種事業を実施してまいります。

さらに、学校種間の滑らかな接続により、教育効果を高める「小・中連携」については、これまで出前授業や研修活動の交流などを進めてまいりましたが、今後は、幼児期と学校教育をつなぐ「幼・小連携」についても取り組んでまいります。

英語（国際理解）教育については、小学校においても外国語活動が本格的に実施されることから、異文化に対する理解やコミュニケーション能力の素地を養うという視点に立ち、外国人の英語指導助手の充実を図るとともに、新たに小学校外国語活動を支援する英語補助員を配置し、低学年から英語に慣れ親しむ環境づくりを進めてまいります。

学校図書館については、図書ボランティアと連携し、朝読書や読み聞かせなどの読書活動を推進するとともに、多様な学習活動を促す図書資料の一層の充実に努めてまいります。

特別支援教育については、介助員や学習支援補助員を効果的に配置し、個別の支援計画などをもとにした適切な指導が進められるよう、学校の取り組みを支援してまいります。

豊かな心の育成については、ボランティア活動や自然体験、社会体験など特色ある教育活動や道徳教育の充実を図り、「生命の尊重や他人を思いやる心」、「規範意識や倫理観」などの醸成に努めてまいります。

健康や体力づくりについては、全国調査の結果を活用して、各学校の体力向上を目指した学習指導や体育行事、部活動の活性化を支援するほか、子ども会やスポーツ少年団などと連携し、スポーツを通した体力づくりが推進されるよう努めてまいります。

また、北国らしいスポーツの取り組みとして、小学校でのスキー学習モデル事業を拡充してまいります。

不登校・いじめなどの問題については、「スクールカウンセラー」や「心の教室相談員」を活用し教育相談活動の充実を図るとともに、「不登校・いじめ等対策会議」や各種研修会を通して、情報の交流や関係機関との連携に努めるほか、いじめ問題では、児童生徒に対するアンケートや個人面談等を活用し「未然防止」と「早期発見」を図る学校の取り組みを促してまいります。

学校の耐震化については、登別中学校及び青葉小学校の体育館の耐震補強工事を実施するほか、引き続き、校舎や体育館の耐震診断を推進してまいります。

また、耐震強度が低かった鷲別小学校校舎及び体育館については、隣接する子育て支援施設などとともに、総合的に整備を図る必要がありますので、「改築検討委員会」を設置し、具体的な構想の策定に着手してまいります。

次に、社会教育についてでありますが、

高齢化が進む中、市民一人ひとりが、生涯にわたって学び続け、自己の長所や適性を再発見し、生きがいを感じることができるよう、様々な学習機会や学習情報を提供していくことが重要であります。「第四次社会教育中期計画」が本年３月、策定を終えますので、今後は、この計画に沿って、各種施策を推進してまいります。

また、学校教育を支援する「学校支援地域本部事業」や、子どもたちの居場所づくりを進める「放課後子ども教室」については、今後も地域全体の協力をいただき拡充に努めてまいります。

さらに、児童の自主性や協調性、基本的生活習慣を育む「通学合宿事業」については、引き続き、学生ボランティアや関係団体の協力を得て充実を図ってまいります。

家庭教育については、ＰＴＡ、地域、関係機関と連携しながら、親同士の交流や子育てに関する学習などを通し、生活習慣や情報モラルなどの意識啓発を図り、家庭の教育力向上に努めてまいります。

青少年の健全育成については、インターネットや携帯電話など情報化の進展により、生徒指導上の問題が広域化していることから、「青少年問題協議会」や「生徒指導担当者連絡会議」を通し、学校や関係機関との連携を深め、事件・事故の未然防止を図ってまいります。

また、子どもの安全確保については、青少年指導センターや町内会、各種団体と連携し、「子ども１１０番の家」や「地域パトロール活動」の充実を図るとともに、各学校での「防犯教室」の実施や「危機管理マニュアル」、「安全マップ」の点検などを促してまいります。

文化・芸術の振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や各種団体との連携を図り、市民の自主的な文化・芸術活動の機会と、発表の場の提供に努めてまいります。また、ふるさとの発展の証を記録に残す「市民が記憶する歴史収集事業」を、郷土史研究会の協力を得ながら取り組んでまいります。

スポーツの振興については、引き続き、各種スポーツ教室や健康の維持・増進を図る講習会などを開催するとともに、総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」の育成・支援に努めるほか、体育協会や各種団体との連携を図り競技力の向上に努めるなど、生涯スポーツ社会の実現を目指してまいります。

学校給食については、地場産の食材や姉妹都市白石市の物産を活用した登別らしい給食の充実に努めるとともに、衛生管理の徹底を図り、安全・安心でバランスのとれた給食の提供に努めてまいります。

図書館については、図書資料や郷土資料の充実に努めるとともに、ボランティア団体との協働による読み聞かせ会や講演会、各種講座を開催するなど、一層の図書館活動の推進に努めてまいります。

また、西胆振三市（室蘭・伊達・登別）の図書館ネットワークの広域化事業に参入し、三市間での図書検索など利便性向上に努めてまいります。

以上、平成２３年度の教育行政に関する主要な方針を申し上げました。

教育委員会といたしましては、次代を担う登別の子どもたちの豊かな成長と、市民一人ひとりが、生き生きと学び続け、豊かな人生を送ることのできる生涯学習社会の創造をめざし、市長部局と連携し、各種施策の推進に全力で取り組んでまいります。

市議会議員の皆さん、市民の皆さんのご支援とご協力をお願い申し上げます。

2　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

全体目標

登　別　市　民　憲　章

登　別　市　総　合　計　画　／　登別市生涯学習基本構想

登　別　市　教　育　目　標

具体的な計画

学校教育基本計画（H21～H30）

重　点　1
子どもたちの「生きる力」の育成

1，確かな学力向上
- ①基礎・基本の定着
- ②思考力、判断力、表現力等の育成
- ③学び続ける意欲の醸成

2，豊かな人間性の育成
- ①豊かな心を育む教育の充実
- ②生徒指導、不登校対策等の充実
- ③教育相談の充実

3，たくましく生きるための健康や体力づくり
- ①健康や体力づくりの推進
- ②食育の推進
- ③地域との連携
- ④指導者、指導技術の充実

重　点　2
地域に根ざした魅力ある学校づくり

1，特色ある教育活動の推進
- ①時代の変化に伴う教育課題への対応
- ②総合的な学習の時間の充実
- ③体験学習の充実
- ④情報機器の効果的な活用

2，開かれた学校づくりの推進
- ①学校公開や地域交流推進
- ②家庭・地域との連携推進
- ③地域の教育力の活用
- ④学校評議員・学校評価の活用推進

3，教育環境の充実
- ①児童生徒の安全確保
- ②安全で衛生的な教育環境の充実
- ③特別支援教育の体制づくり
- ④教職員の資質能力の向上

第4次社会教育中期計画（H23～H27）

1　人づくり

(1)青少年教育
次代を切り開くたくましさと豊かな心をもつ青少年を育成するための各種体験活動の充実、環境の整備

(2)成人教育
市民の主体的な学習の推進
＜市民が主体となった社会教育を目指して＞

(3)高齢者教育
高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実

(4)全世代教育
異世代間交流の充実

2　家庭教育
家庭の教育力向上のための学習支援の教化、充実

3　条件整備
いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備

4　文化活動
文化の保護・継承と文化活動や文化を育む環境づくりの推進を図る

文化振興基本計画（H17～H26）

5　健康づくり・スポーツ
生涯スポーツの推進を図る

スポーツ振興基本計画（H17～H26）

点検・評価

教育員会点検・評価

- 教育行政執行方針の自己評価
- 教育委員会活動報告
- 学識経験者による評価・意見

事務事業評価

- 予算を伴う事業の評価
- 担当による自己評価

各種基本計画の進捗状況

- 学校教育基本計画
- 第4次社会教育中期計画
- 文化振興基本計画
- スポーツ振興基本計画

3　平成23年度　各種基本計画の進捗状況
学校教育基本計画

重点1　子どもたちの「生きる力」の育成

	主要な施策	推進項目	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成22年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1 確かな学力の向上	①基礎・基本の定着	学力向上プラン	○				3	○			3
		基礎・基本の徹底	○				3		○		3
		指導方法工夫改善	○				3	○			3
		学校支援ボランティアの活用		○					○		
		家庭学習の充実	○				3	○			3
	②思考力、判断力、表現力等の育成	校内研修の充実	○				4	○			
		公開研究会の開催	○			・教育実践研究奨励経費	4	○			
		研修講座等への参加促進		○			4		○		5
		教科との関連を図った「総合的な学習の時間」の充実		○		・特色ある学校づくり推進経費			○		
		個に応じた指導の充実		○					○		3
	③学び続ける意欲の醸成	学習評価の充実		○					○		
		授業の充実	○				2	○			
		生活習慣・学習習慣の形成	○				3	○			3
		創意工夫を生かした教育課程の編成	○				2	○			4
2 豊かな人間性の育成	①豊かな心を育む教育の充実	自然体験活動の充実	○			・特色ある学校づくり推進経費 ・自然体験学習推進経費	10	○			
		社会体験活動の充実	○				10	○			9
		道徳教育の充実	○					○			8
		地域の人材活用		○					○		
		読書活動の推進	○			・図書館運営管理費 ・移動図書館車運行業務委託料	8		○		7
	②生徒指導、不登校対策等の充実	生徒指導の校内体制の充実		○			12		○		
		情報連携・行動連携の充実		○		・青少年育成指導経費			○		
		不登校・いじめ等対策		○		・不登校・いじめ等対策経費	12		○		11
		適応指導教室等の充実		○					○		11
		関係機関との連携		○					○		11
	③教育相談の充実	スクールカウンセラーの活用	○			・スクールカウンセラー活用事業		○			11
		心の教室相談員の活用		○		・心の教室相談員活動経費			○		
		電話・メール・訪問相談の充実		○					○		
		「いじめ問題」への適切な対応		○		・不登校・いじめ等対策経費			○		
		地域、関係部局、関係機関との連携促進	○			・SSW活用事業	12		○		
3 たくましく生きるための健康や体力づくり	①健康や体力づくりの推進	「体力」についての実態把握		○				○			
		体育の授業の充実		○					○		
		体力の向上を目指した特色ある教育活動の促進	○			・スキー体験学習事業費	11		○		10
		薬物乱用防止教育の推進		○				○			
		性に関する指導の推進		○				○			
		体育施設設備の整備・充実		○					○		21
		中学校運動部活動の充実	○			・特別活動推進経費	11		○		
	②食育の推進	食に関する指導 「全体計画」の作成		○					○		
		食の通信「すくすく」の発行		○					○		
		栄養教諭による指導		○				○			10
		望ましい食習慣の啓発	○				21	○			12
	③地域との連携	放課後子どもプランの実践	○			・放課後子ども教室推進事業	15	○			
		学校支援ボランティアによる支援	○				15		○		
	④指導者、指導技術の充実	講習会、各種研修会の参加促進		○					○		
		地域人材の活用		○					○		

重点２　地域に根ざした魅力ある学校づくり

	主要な施策	推進項目	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成22年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
１　特色ある教育活動の推進	①時代の変化に伴う教育課題への対応	国際理解教育の推進	○				7		○		
		伝統文化に触れる機会の提供		○			7		○		13
		食育の推進		○				○			12
		環境教育の推進	○						○		
		人権教育の推進		○					○		
		英語教育の推進 小学校外国語活動の推進	○			・外国青年招致経費	7	○			
		安全教育の推進	○						○		
		読書活動の推進	○				8	○			7
	②総合的な学習の時間の充実	全体計画・指導計画の充実		○					○		
		地域の人材・環境の活用		○					○		13
		特色ある活動の継承		○					○		13
		キャリア教育		○					○		
	③体験活動の充実	自然体験・社会体験学習の充実	○			・自然体験学習推進経費		○			
		異学年交流の促進	○					○			17
		子ども共同生活体験の推進	○			・通学合宿　みんなで学ぶ「子ども村」		○			17
	④情報機器の効果的な活用	情報教育の推進	○			・小中学校情報教育推進事業		○			6
		授業での活用促進		○					○		6
		教員用コンピュータの効果的な活用		○					○		
		登別市情報教育推進協議会との連携	○					○			6
２　開かれた学校づくりの推進	①学校公開や地域交流の推進	学校からの情報発信		○			4		○		
		学校公開の促進	○				1	○			2
		学校支援ボランティアの活用		○					○		
		地域活動との連携		○					○		
		小中学校の連携の促進	○				6		○		
	②家庭・地域との連携促進	家庭教育の充実	○				16	○			15
		地域教育の充実		○					○		1
		学校支援ボランティアの体制整備	○			・子ども地域交流プラザ事業補助金 ・学校支援地域本部事業費	15		○		16
	③地域の教育力の活用	学校支援ボランティアの活用	○				13	○			21
	④学校評議員・学校評価の活用促進	学校評議員制度		○		・開かれた学校づくり推進事業			○		
		学校評価の促進		○			5		○		
		学校評価の活用		○					○		
３　教育環境の充実	①児童生徒の安全確保	施設設備の保守点検、改修	○					○			
		学校施設の耐震化	○				13	○			21
	②安全で衛生的な教育環境の充実	危機管理マニュアルの点検	○						○		18
		不審者対策等、登下校の安全確保		○					○		
		学校環境検査の実施		○					○		
	③特別支援教育の体制作り	児童生徒の実態把握	○			・特別支援教育推進経費	9	○			8
		推進のための校内体制の整備		○					○		
		コーディネーター等研修会の開催		○					○		
		支援員（介助員、学習支援補助員）	○				9		○		8
		登別市特別支援教育推進協議会		○		・特別支援教育振興費			○		
		部局・関係団体等との連携促進	○			・言語障害通級教室運営経費			○		
	④教職員の資質能力の向上	校内研修の充実	○				4	○			
		研修事業への派遣促進	○					○			
		学校職員評価の実施		○					○		
		教員研修会等の開催	○					○			5
		登別市教育研究会との連携		○		・教育研究会運営事業補助金			○		
		胆振教育研究所との連携		○					○		

第４次社会教育中期計画（H23～H27）

	主要な施策	推進項目	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成22年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1	人づくり	(1)青少年 次代を切り開くたくましさと豊かな心をもつ青少年を育成するため各種体験活動の充実、環境の整備	○			・子ども地域交流プラザ事業補助金 ・私立高等学校教育振興補助金 ・姉妹都市小中学校交流事業補助金 ・少年の主張大会経費 ・子ども会活動振興助成金		○			16
		(2)成人 市民の主体的な学習の推進＜市民が主役となった社会教育を目指して＞	○			・市民生涯学習推進講座経費 ・三市合同女性国内派遣研修経費 ・成人祭経費		○			
		(3)高齢者 高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実	○					○			
		(4)全世代 異世代間交流の充実	○			・生涯学習推進経費		○			
2	家庭教育	家庭の教育力向上のための学習支援の強化、充実	○			・PTA連合会助成金	16	○			15
3	条件整備	いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備・充実		○		・教育施設運営管理委託料 ・社会教育業務推進事業費			○		14
4	文化活動	文化振興基本計画の推進	○			・文化スポーツ財団事業補助金	19	○			19
5	健康づくり・スポーツ	スポーツ振興基本計画の推進	○			・体育協会助成金 ・生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成経費	20	○			19

文化振興基本計画

	主要な施策	推進項目	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成22年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1	市民文化活動の活性化	・自主的、個性的な文化活動 ・文化情報の収集、周知、参加の促進 ・芸術文化の鑑賞機会の提供 ・文化活動施設の整備	○			・婦人研修の家維持管理経費 ・公民館運営管理費 ・ネイチャーセンター運営管理経費		○			
2	文化活動を担う人づくり	・文化活動の広がり ・青少年の健全育成 ・自主的な文化活動の育成 ・人材育成と発掘	○			・「ほん」との出会い、ふれ愛、語り合い ・図書館運営管理事業	19	○			20
3	歴史の伝承と活用	・郷土への愛着 ・埋蔵文化財の保護と活用 ・民俗芸能の継承 ・温泉の歴史の活用、発信	○			・文化伝承館運営管理費 ・のぼりべつ文化交流館運営管理費 ・郷土史写真保存・公開事業費 ・郷土資料館運営管理費	19		○		
4	アイヌ文化の振興	・市民一人ひとりの共有財産として、歴史的な遺産にとどめることなく、将来に向かって振興を図る	○			・文化財保護経費		○			19

スポーツ振興基本計画

	主要な施策	推進項目	平成23年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費	執行方針重点番号	平成22年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1	スポーツレクリエーション活動の推進	・余暇の充実 ・参加するスポーツへの転換	○			・姉妹都市スポーツ交流事業助成金 ・きらり健康ふれあいウォーキング ・体育指導委員会経費 ・文化・スポーツ振興財団事業補助金	20	○			19
2	健康・体力づくり	・高齢化社会を健やかに ・医療費の縮減につなげる	○			・学校開放事業費		○			19
3	競技スポーツの推進	・青少年の健全育成 ・全国・全道レベルの達成	○			・三市スポーツ大会事業費 ・児童生徒スポーツ振興費	20	○			
4	学校におけるスポーツ活動の推進	・体育指導の充実 ・運動・スポーツに親しむ ・資質・能力の育成		○		・市民プールバスパック業務委託費			○		
5	施設整備の推進	・施設の積極的開放 ・協力し合い利用 ・スポーツ施設情報		○		・青少年会館運営管理費 ・市民プール運営管理経費			○		